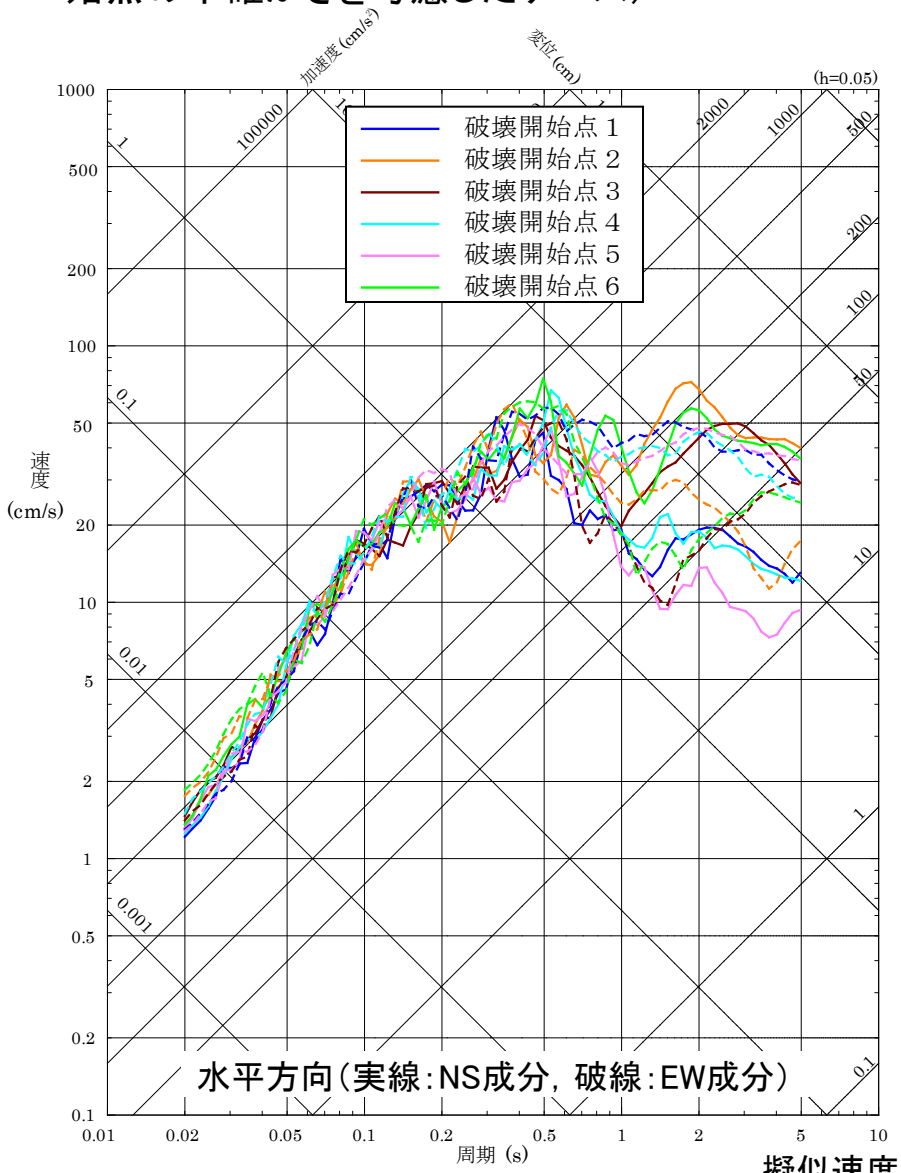
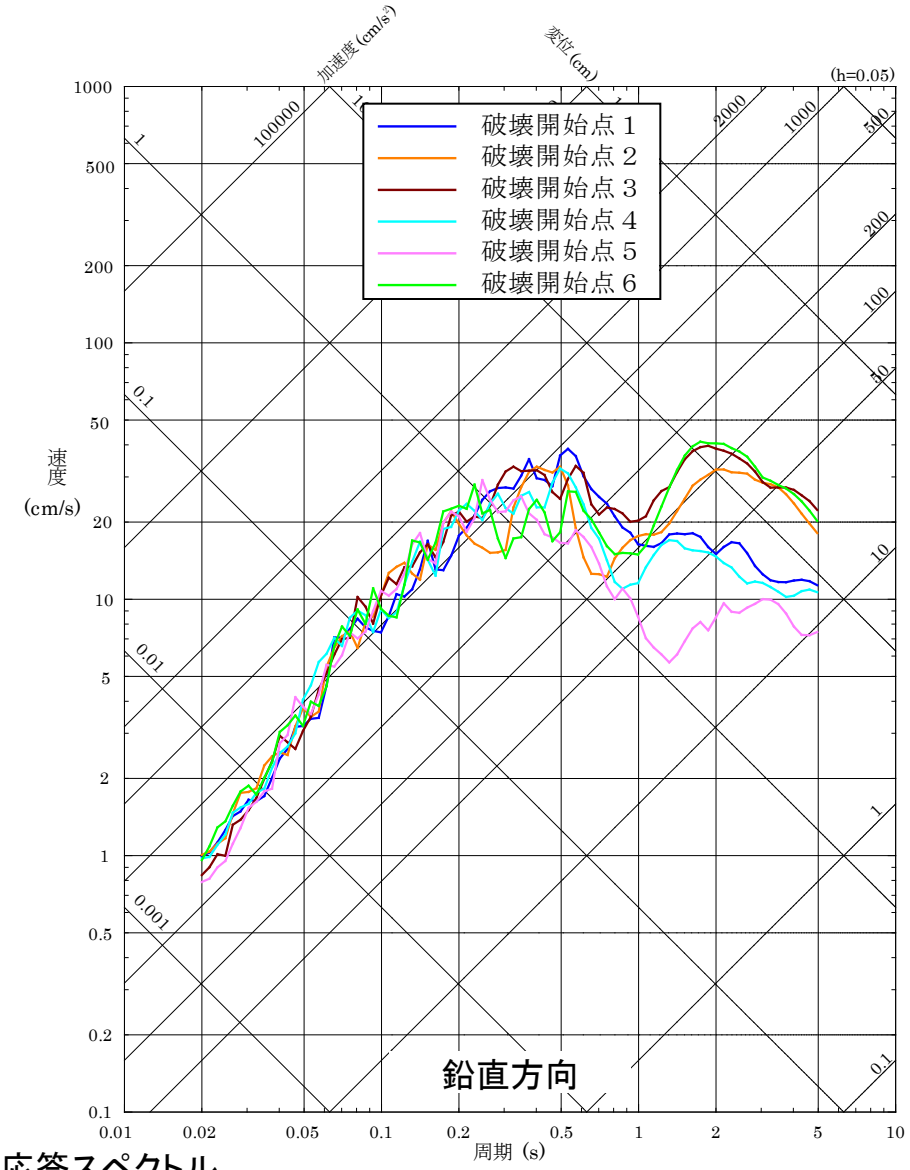
第530回審査会合資料1 P95 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　1/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果（①基本震源モデル及び②破壊開始点の不確かさを考慮したケース）



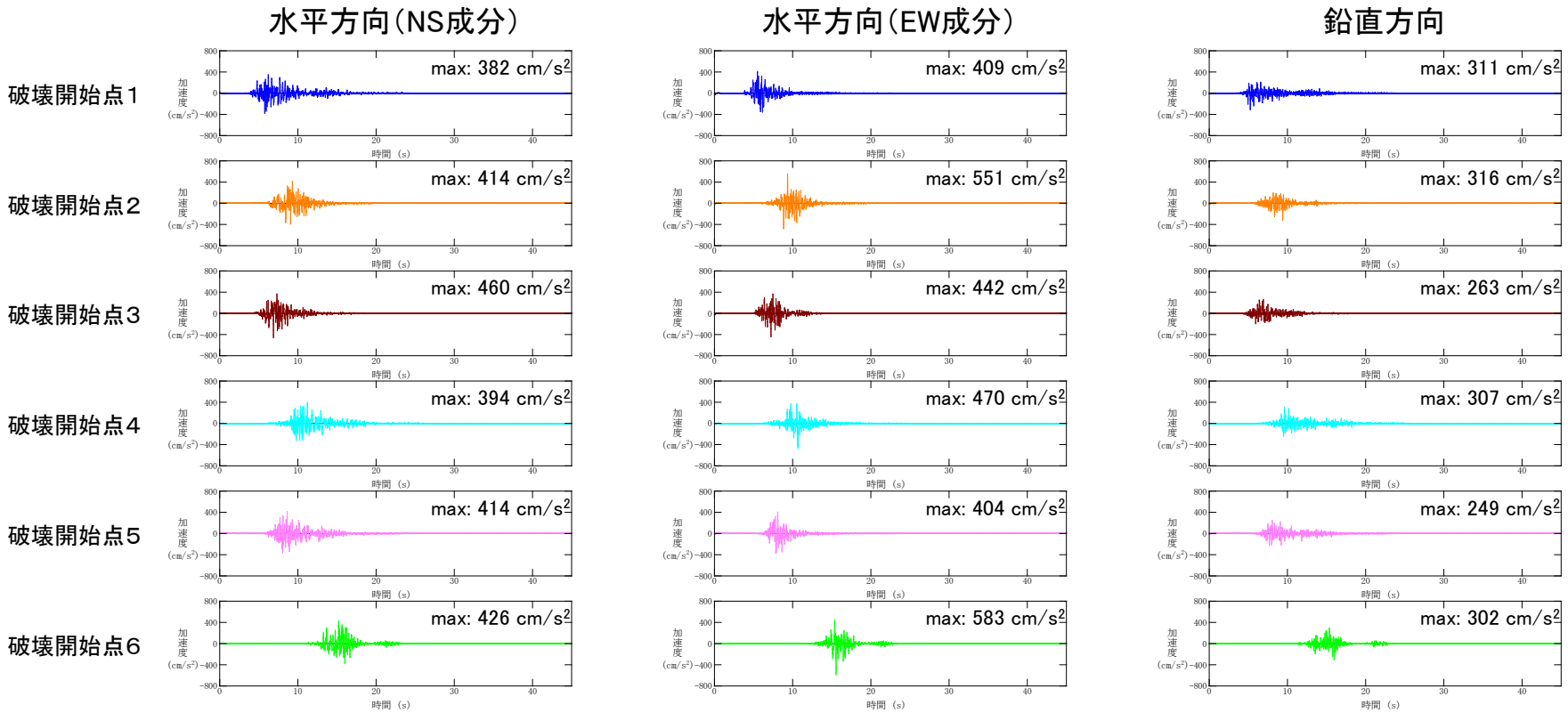


擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P96 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　2/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（①基本震源モデル及び②破壊開始点の不確かさを考慮したケース）

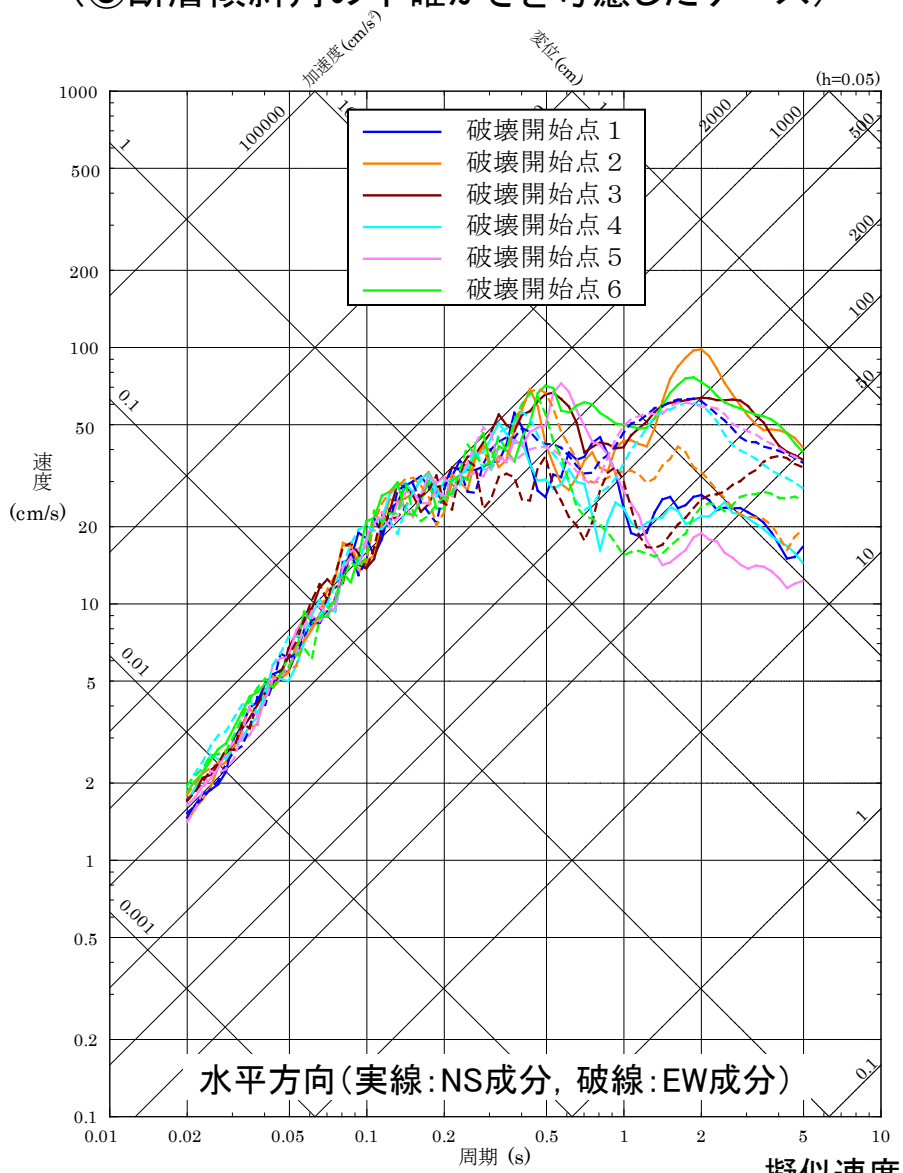


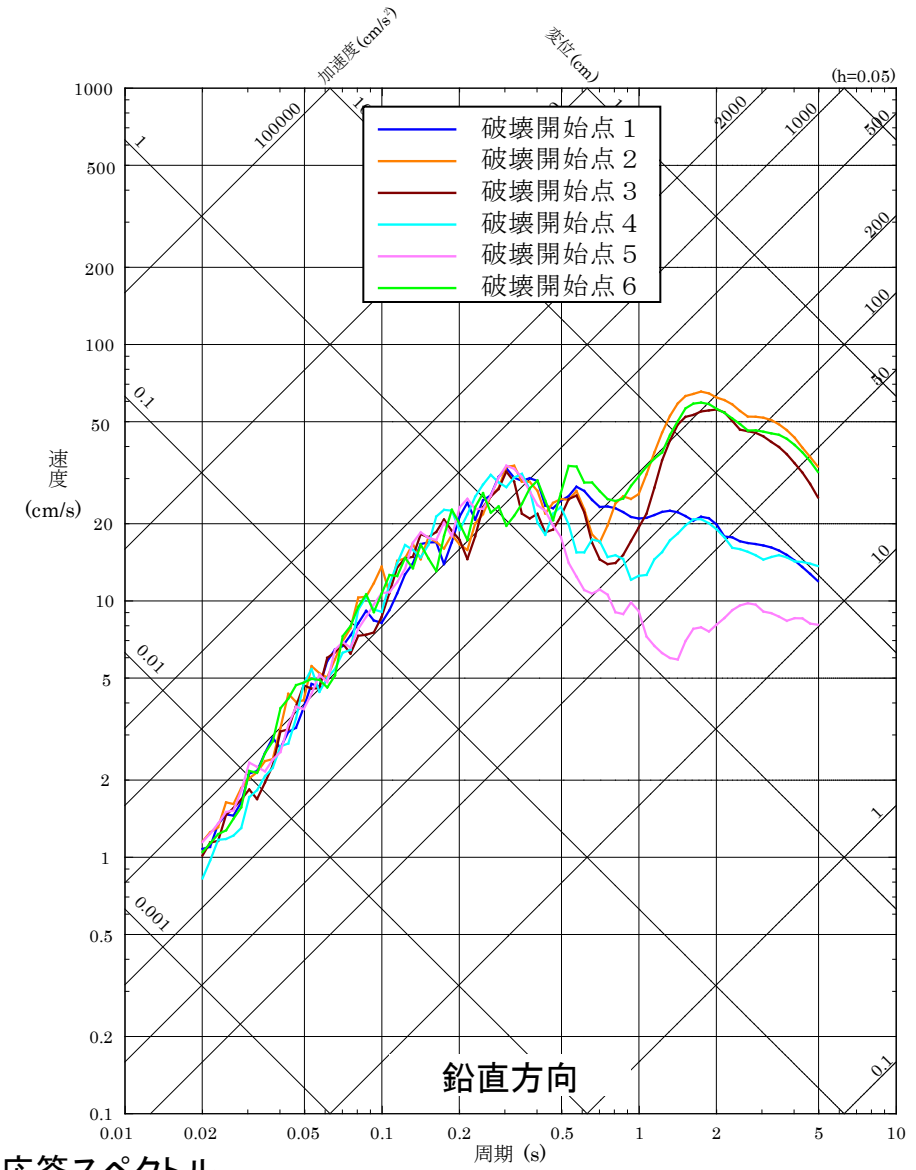
加速度時刻歴波形

第530回審査会合資料1 P97 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　3/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（③断層傾斜角の不確かさを考慮したケース）



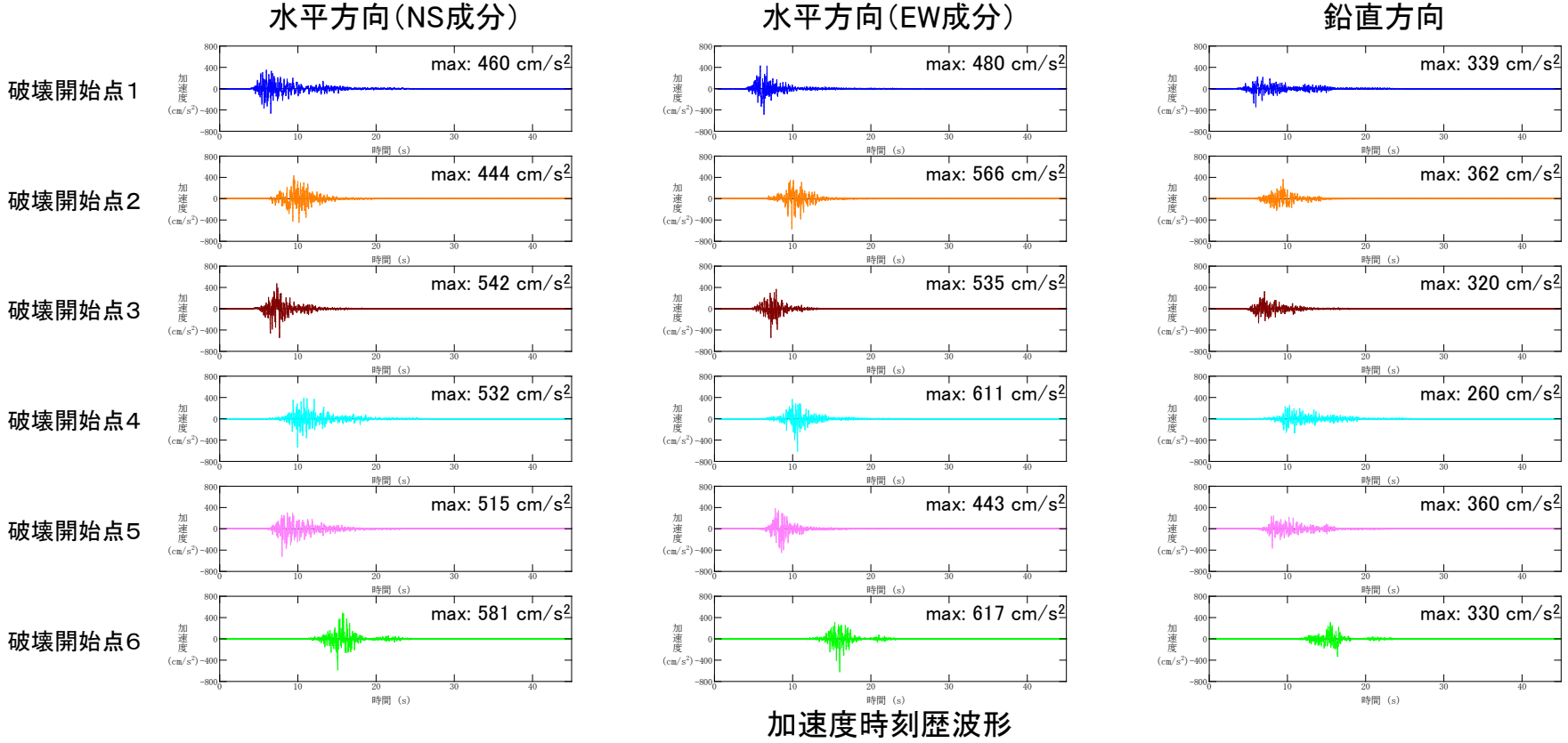


擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P98 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　4/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（③断層傾斜角の不確かさを考慮したケース）

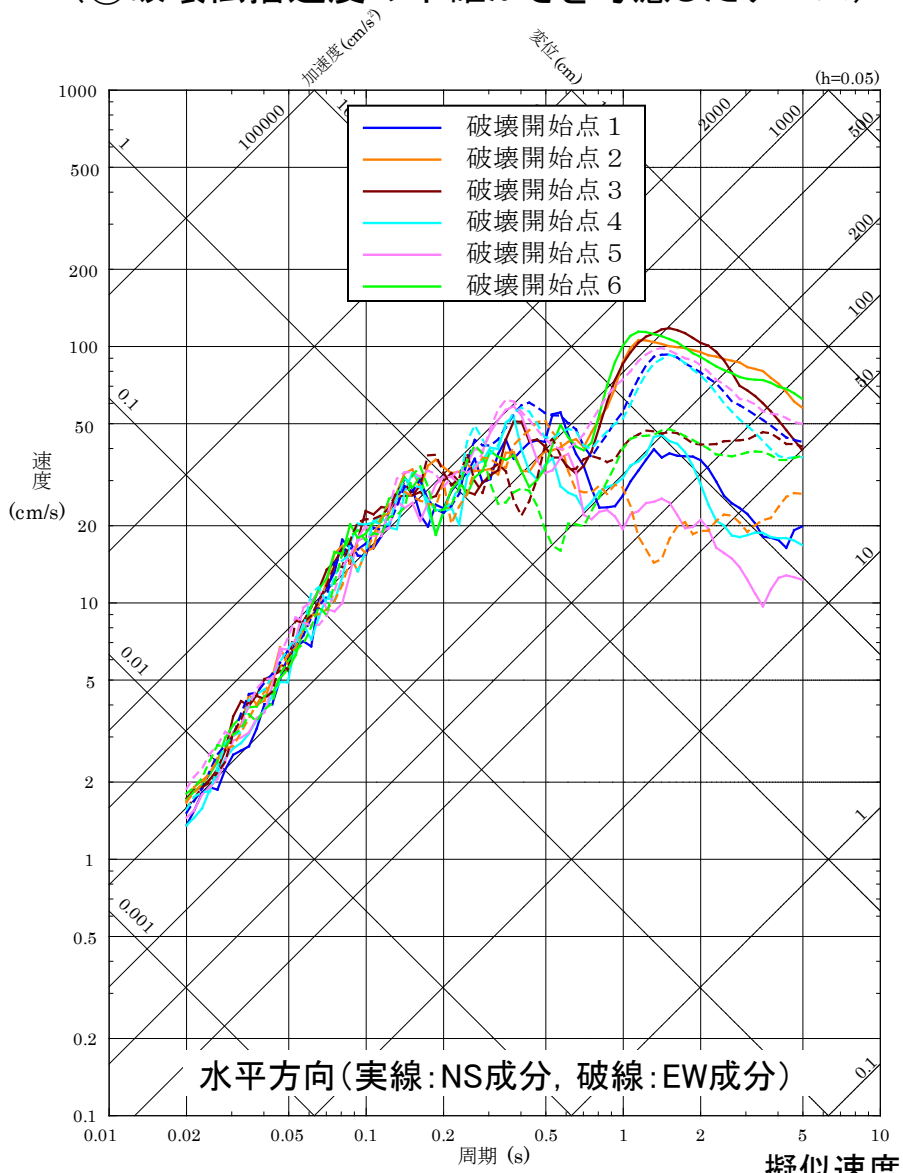


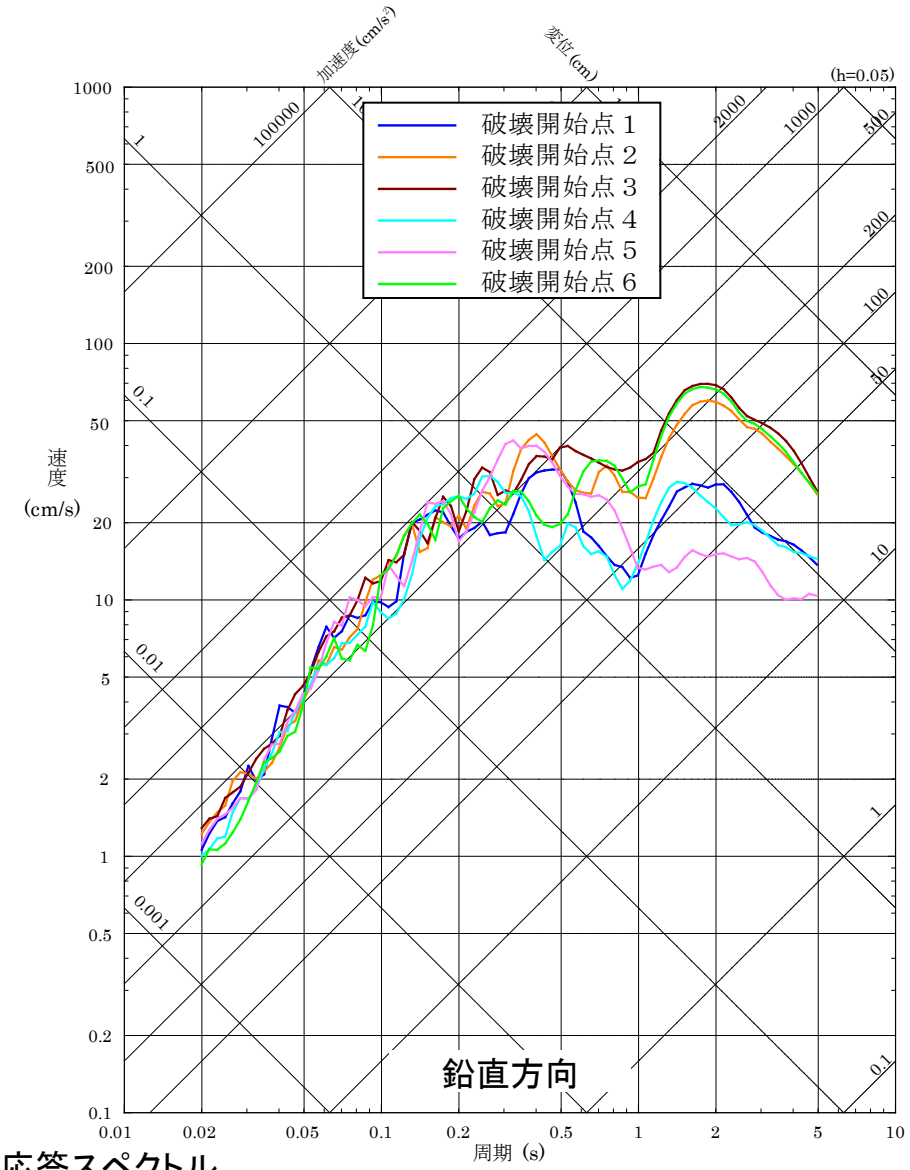
加速度時刻歴波形

第530回審査会合資料1 P99 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　5/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（④破壊伝播速度の不確かさを考慮したケース）



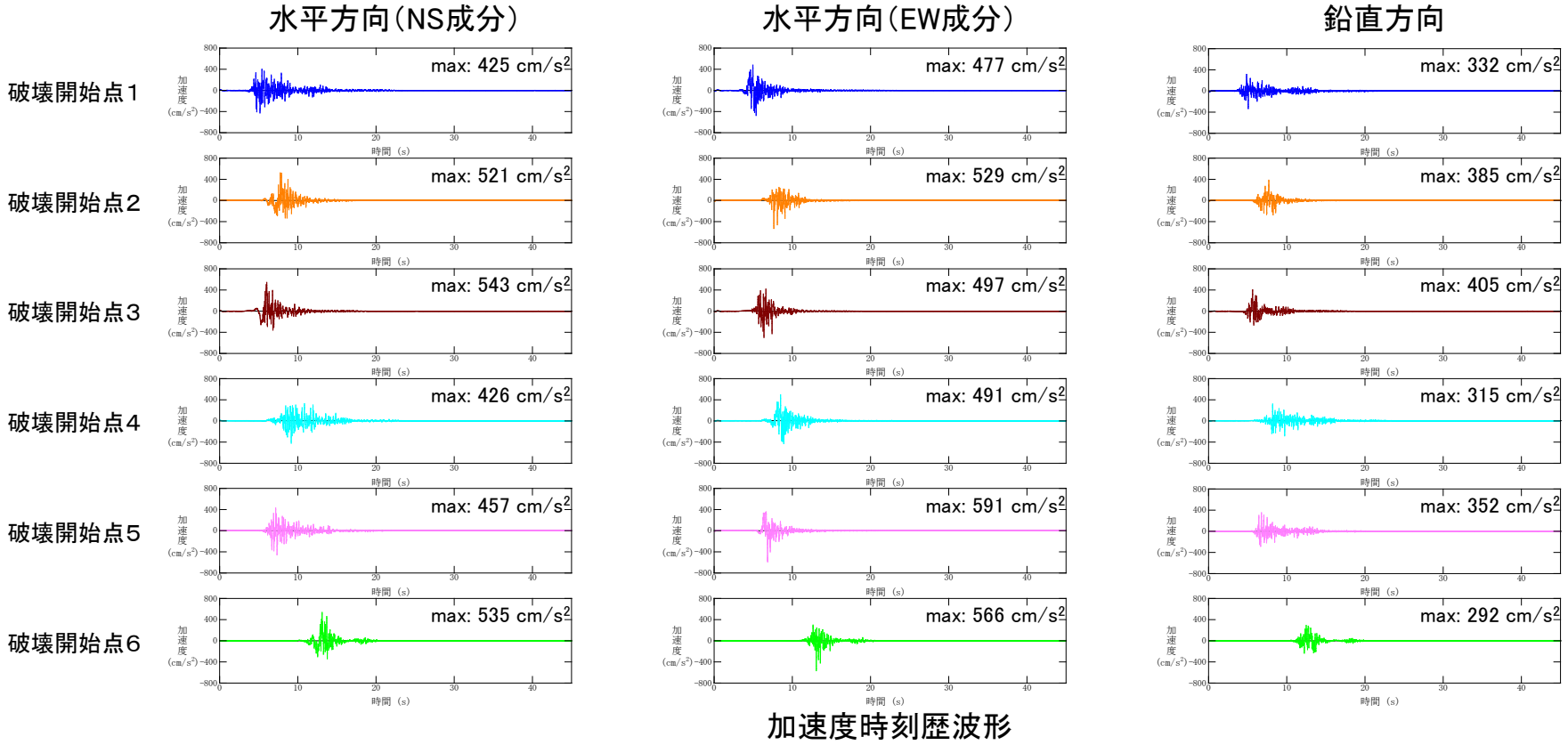


擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P100 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　6/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（④破壊伝播速度の不確かさを考慮したケース）

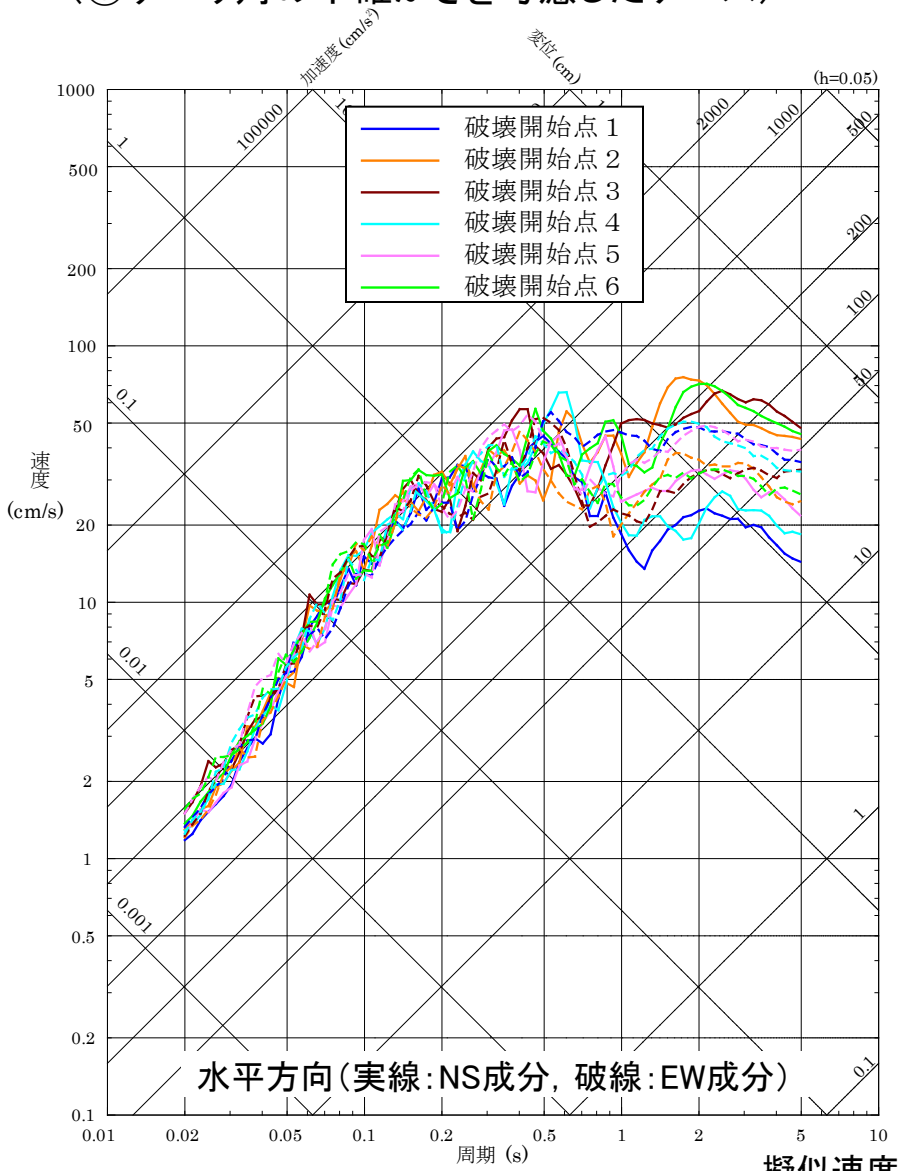


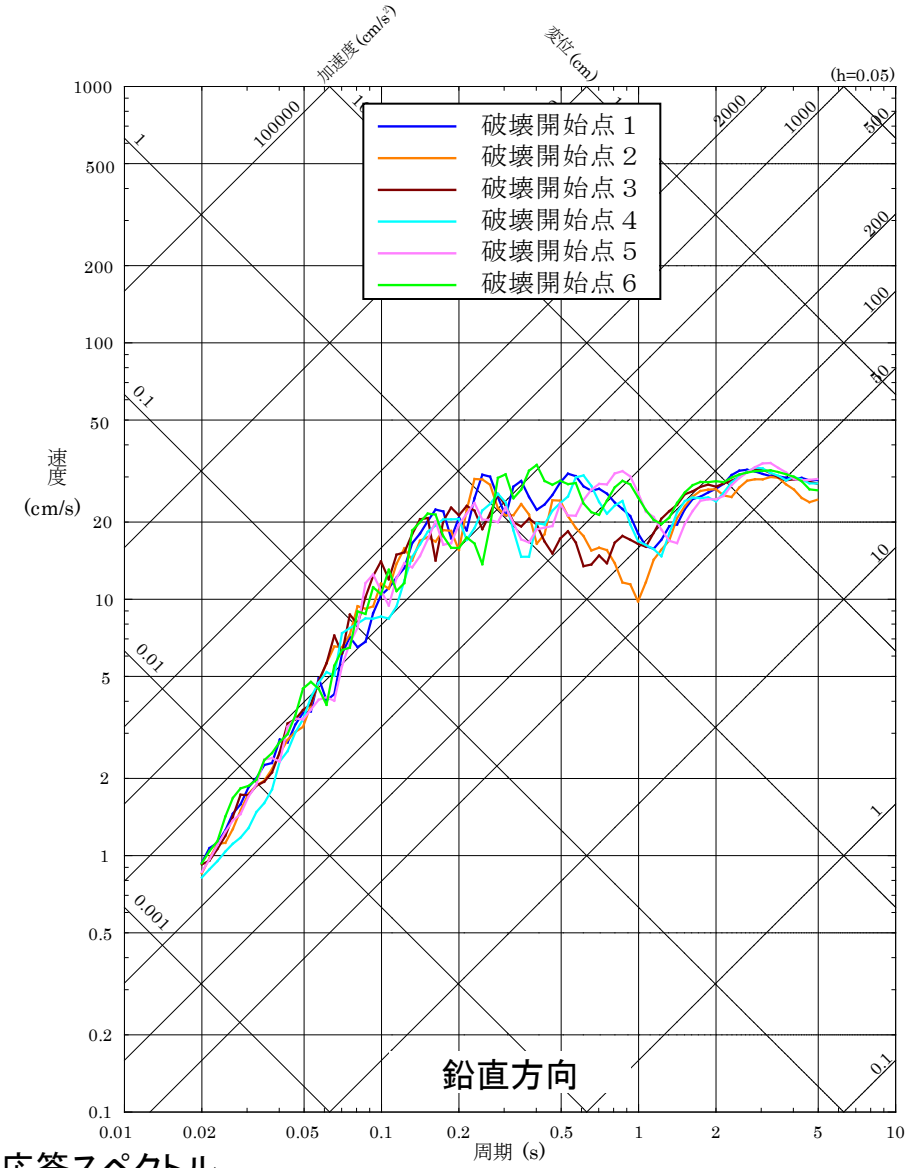
加速度時刻歴波形

第530回審査会合資料1 P101 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　7/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑤すべり角の不確かさを考慮したケース）

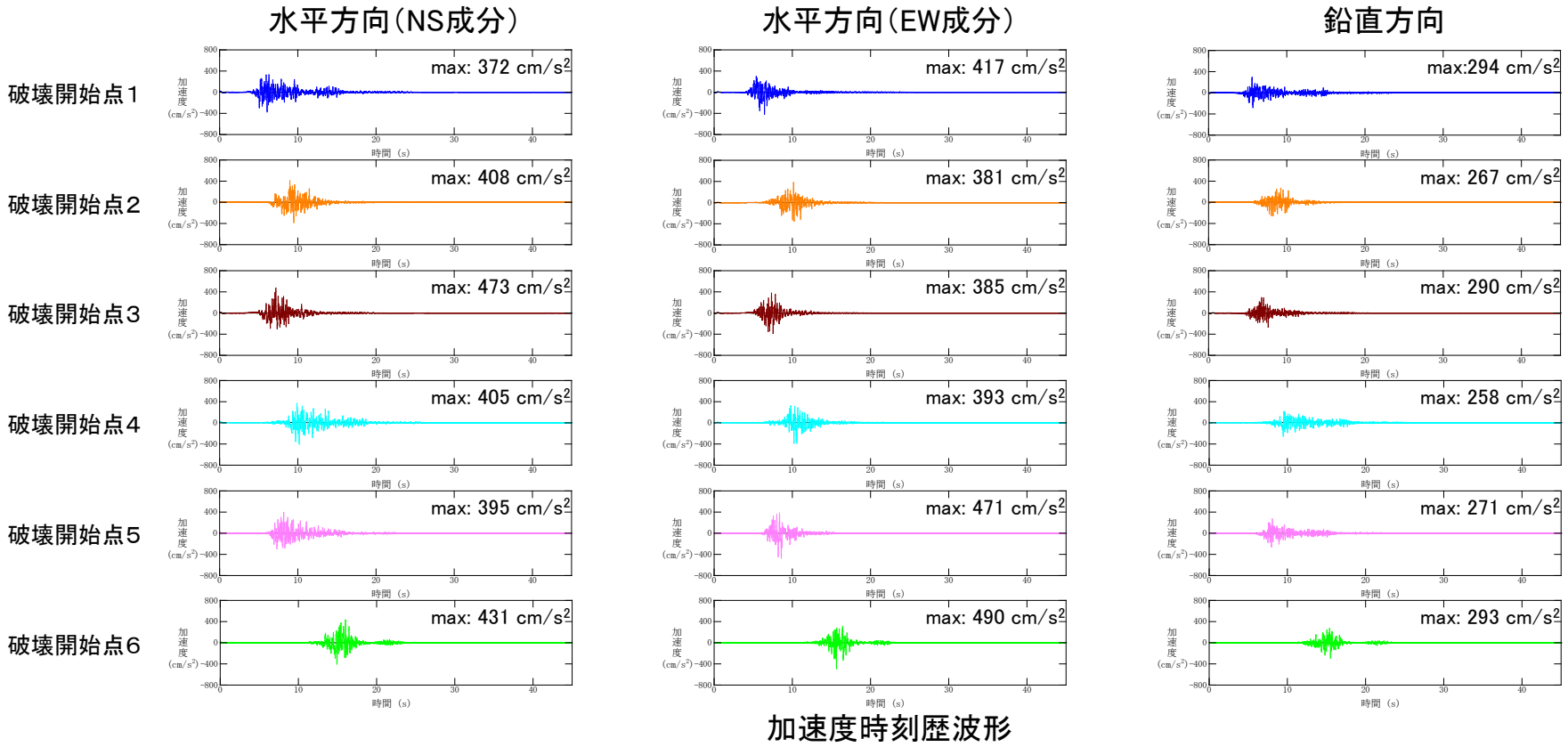




擬似速度応答スペクトル

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　8/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑤すべり角の不確かさを考慮したケース）

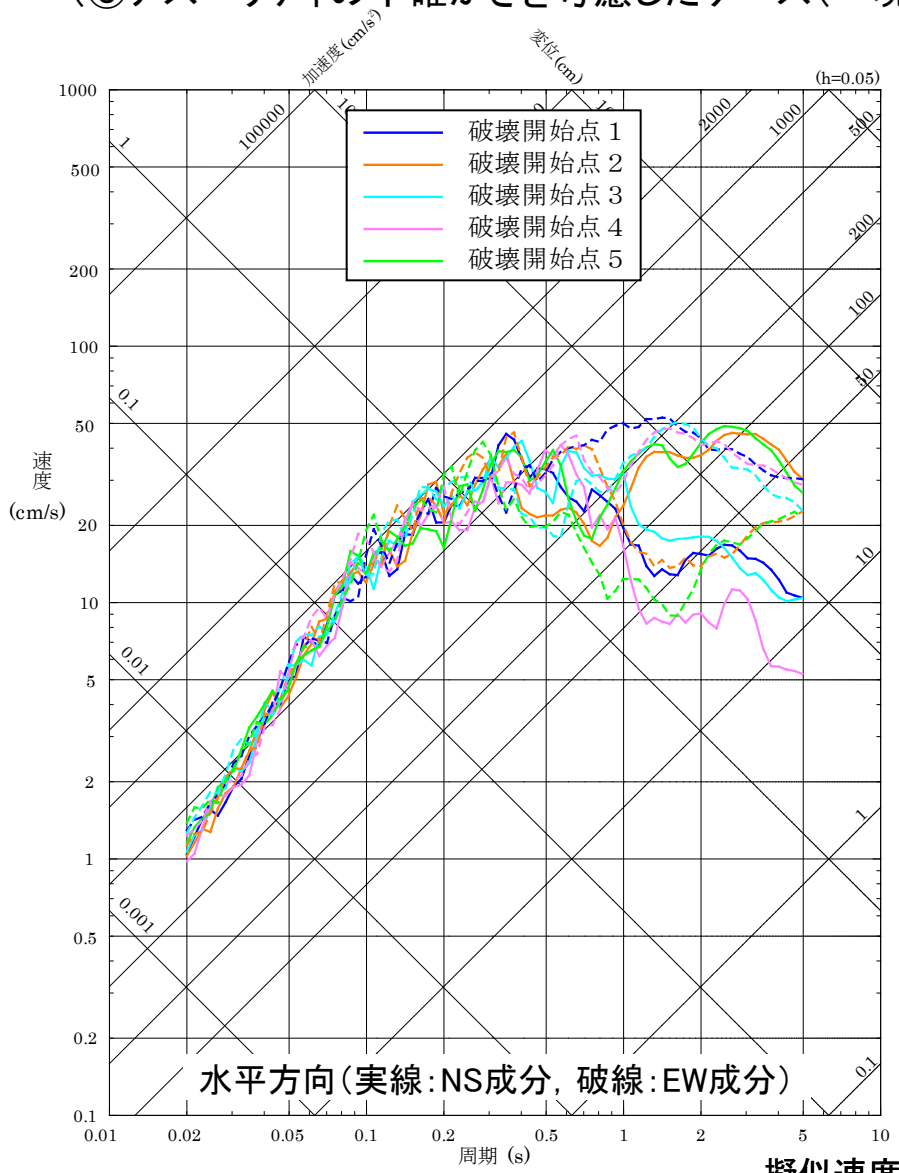


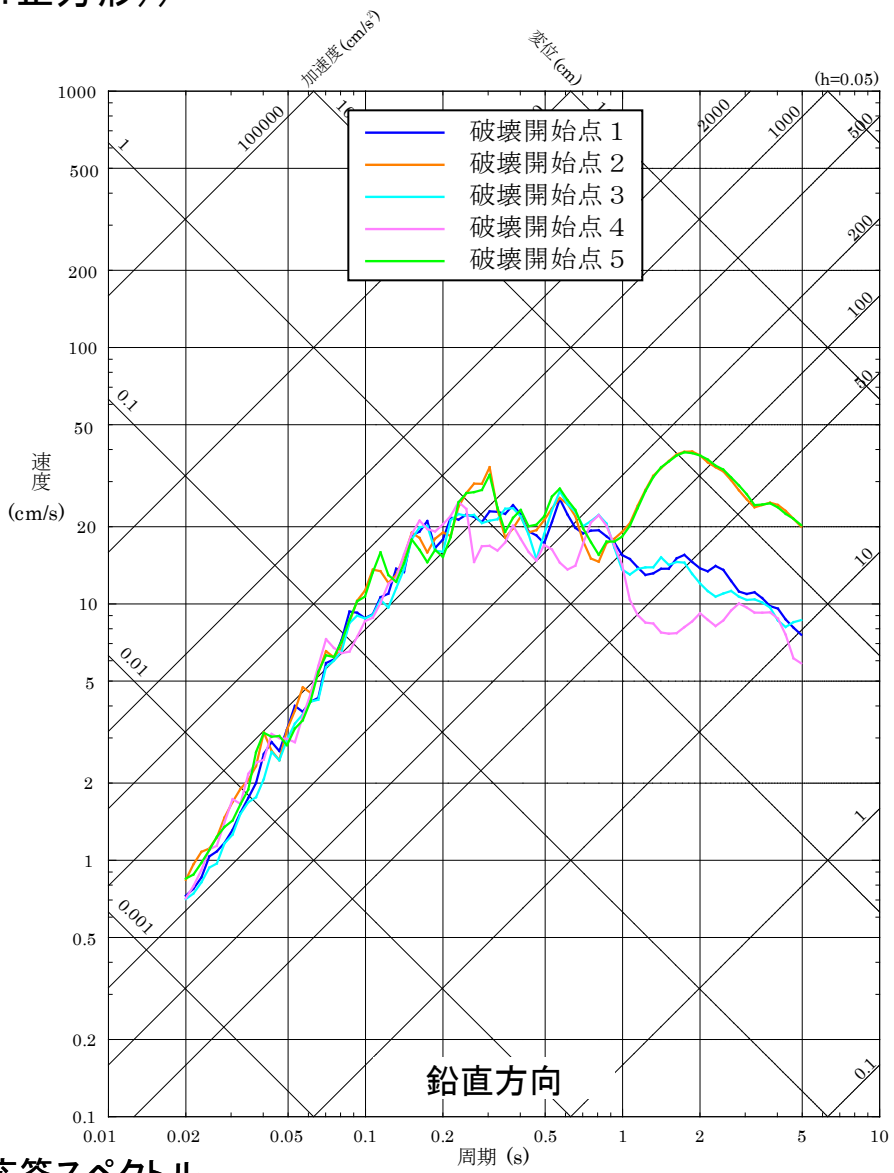
加速度時刻歴波形

第530回審査会合資料1 P103 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　9/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑥アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：正方形））



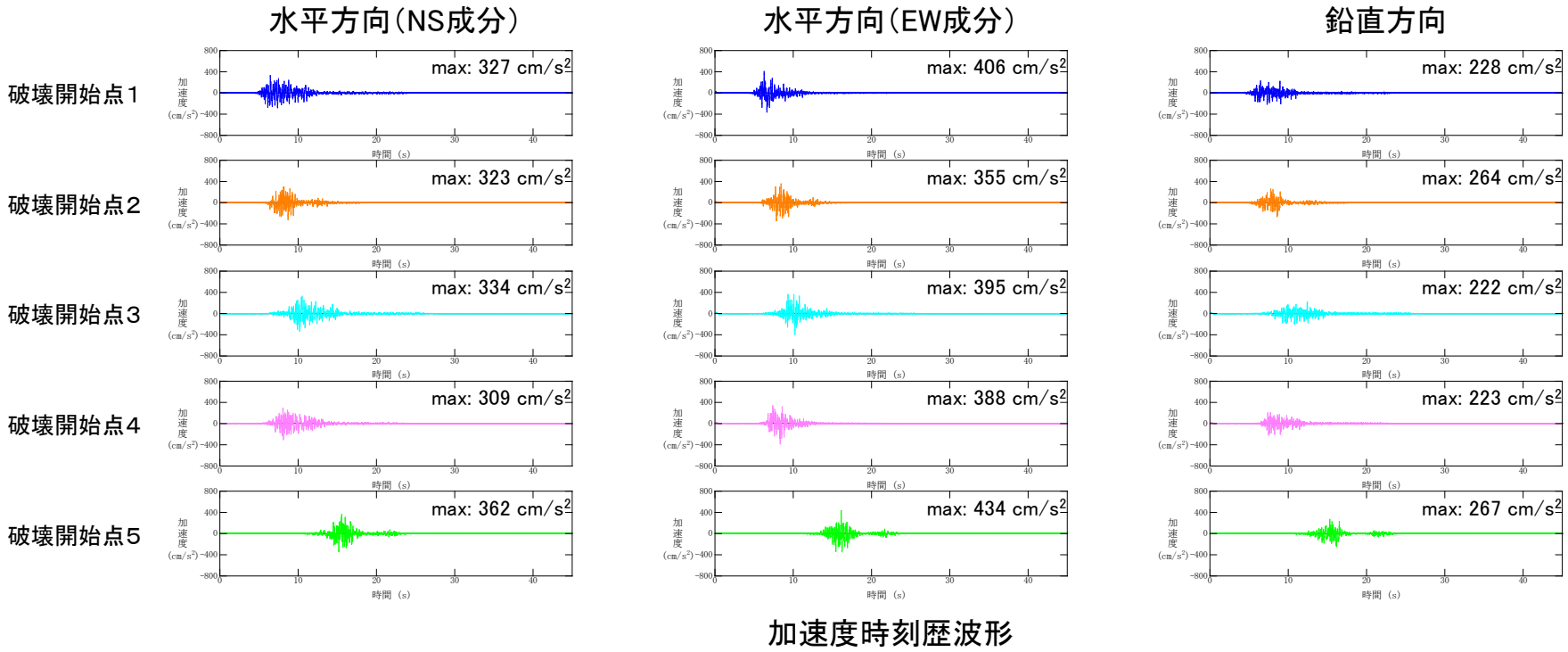


擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P104 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　10/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑥アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：正方形））

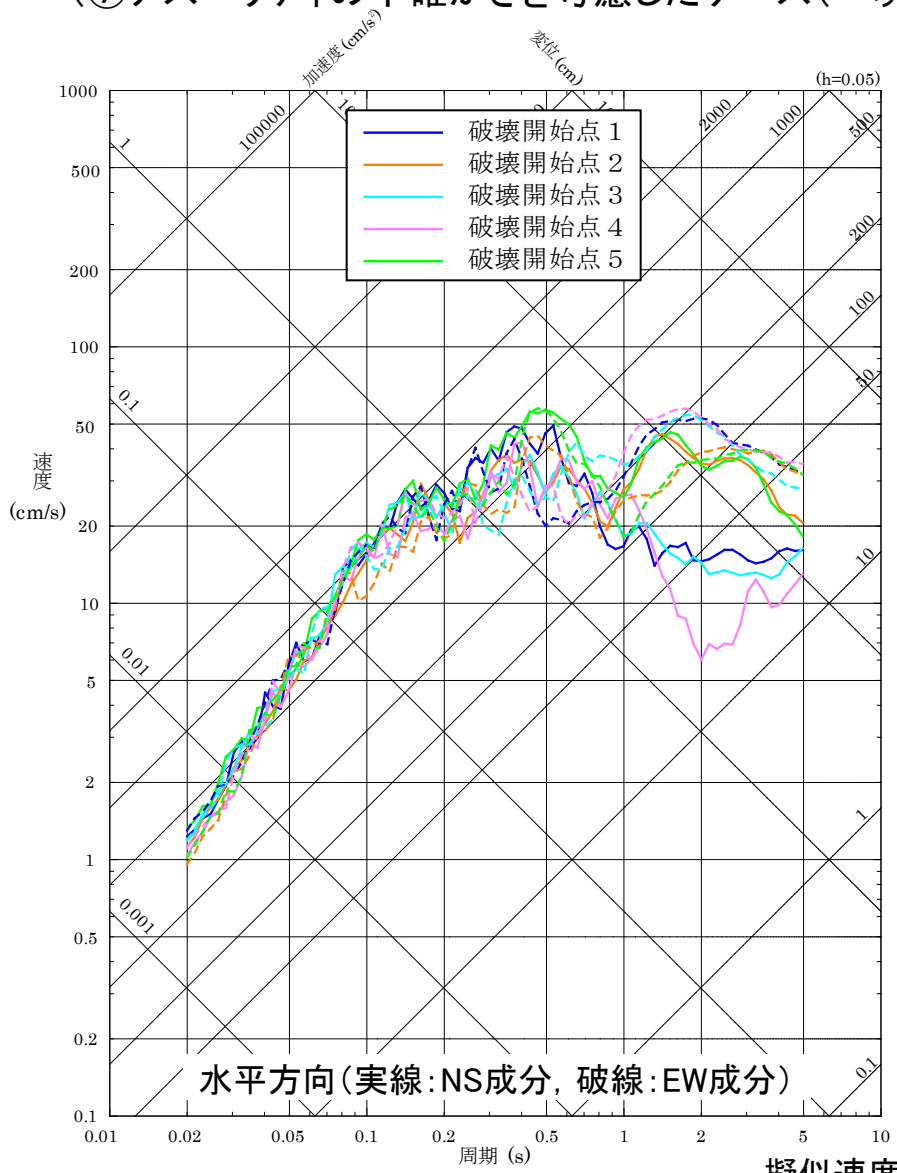


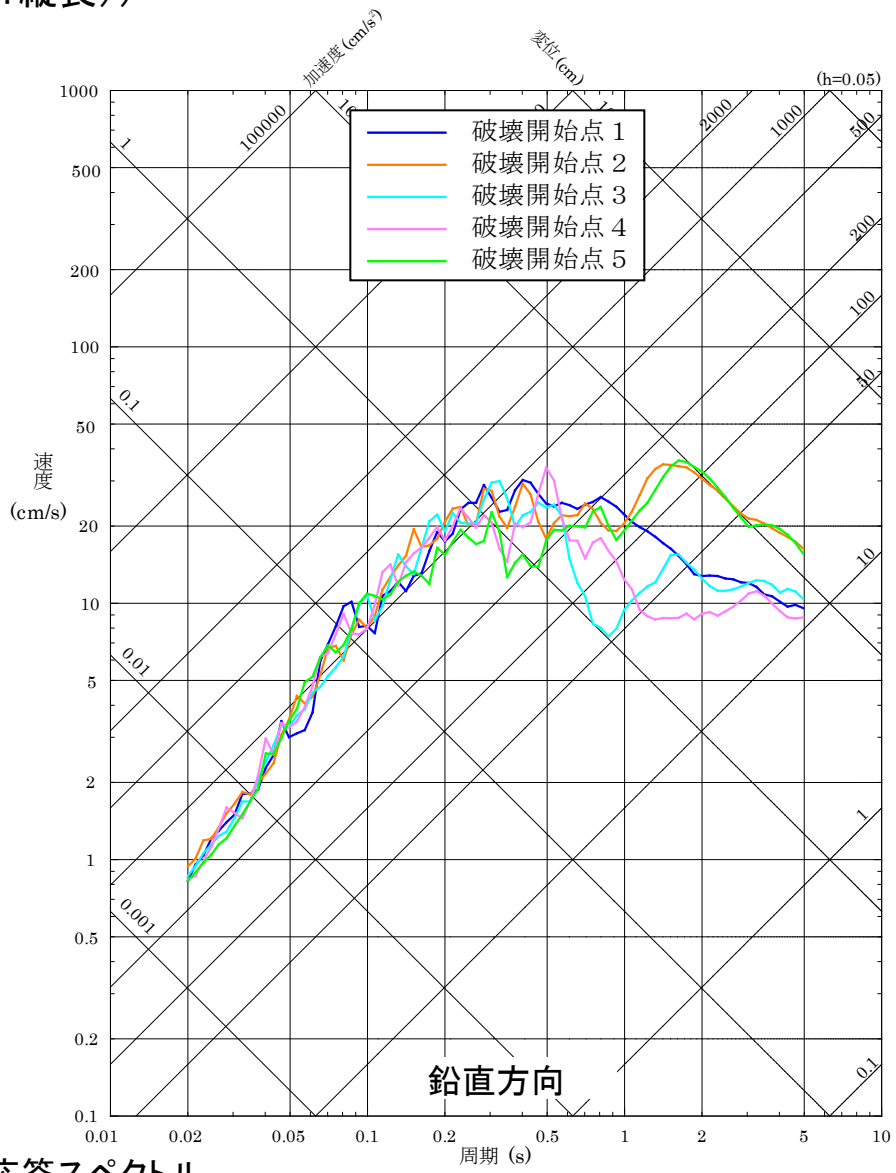
加速度時刻歴波形

第530回審査会合資料1 P105 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　11/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑦アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：縦長））

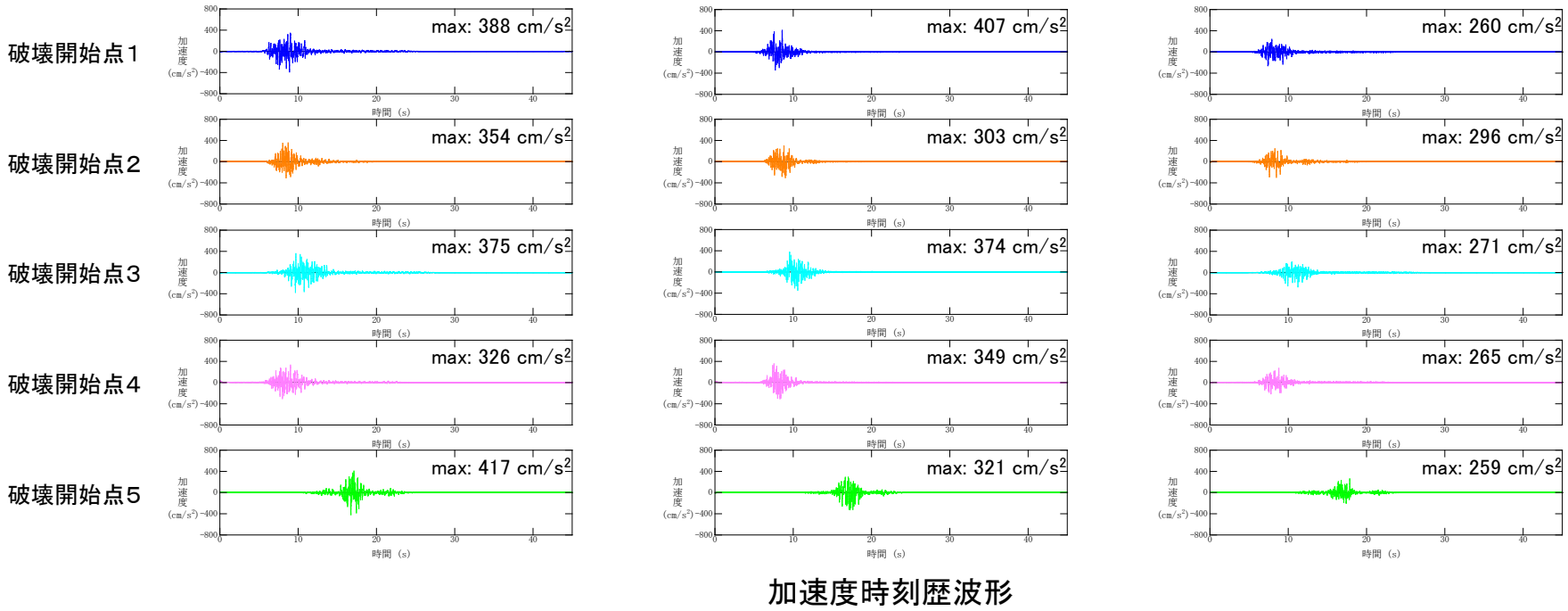




擬似速度応答スペクトル

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　12/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑦アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：縦長））

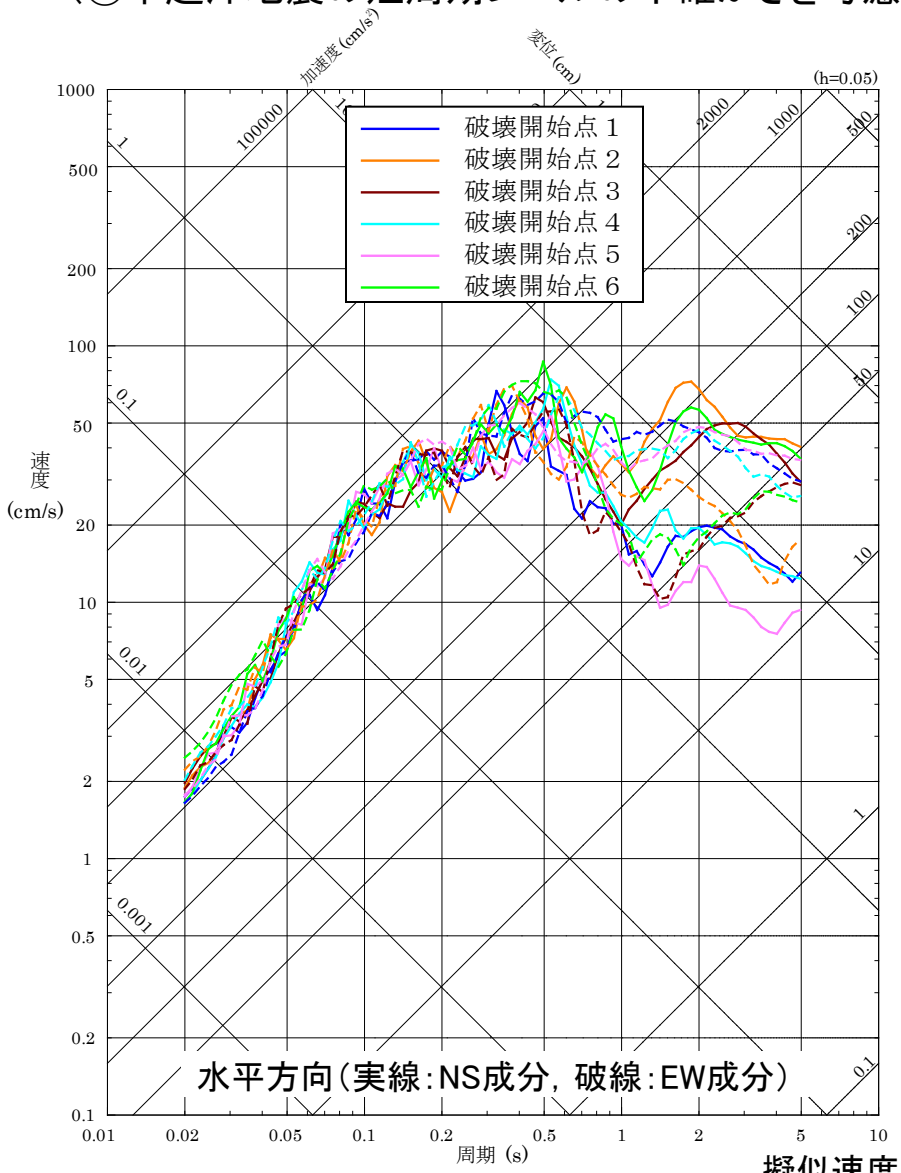


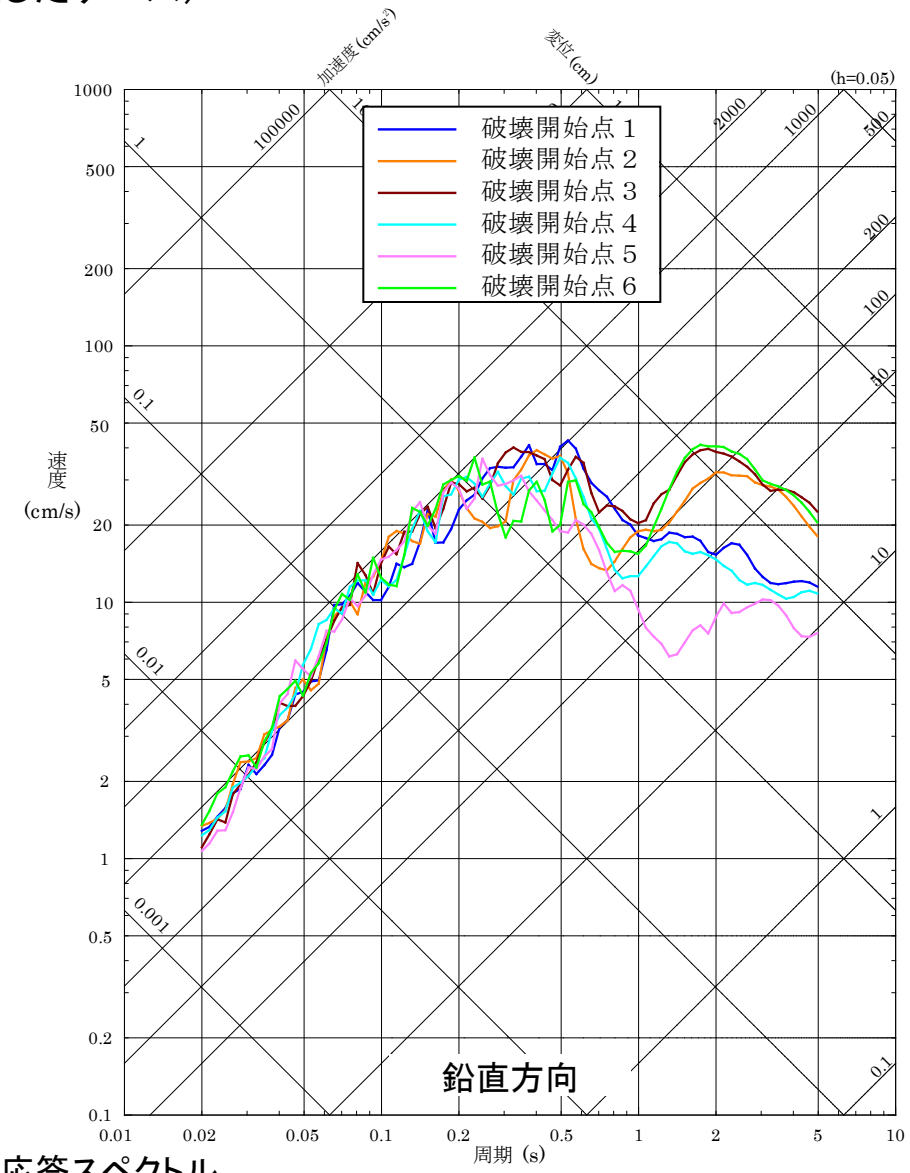
加速度時刻歴波形

第530回審査会合資料1 P107 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　13/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑧中越沖地震の短周期レベルの不確かさを考慮したケース）





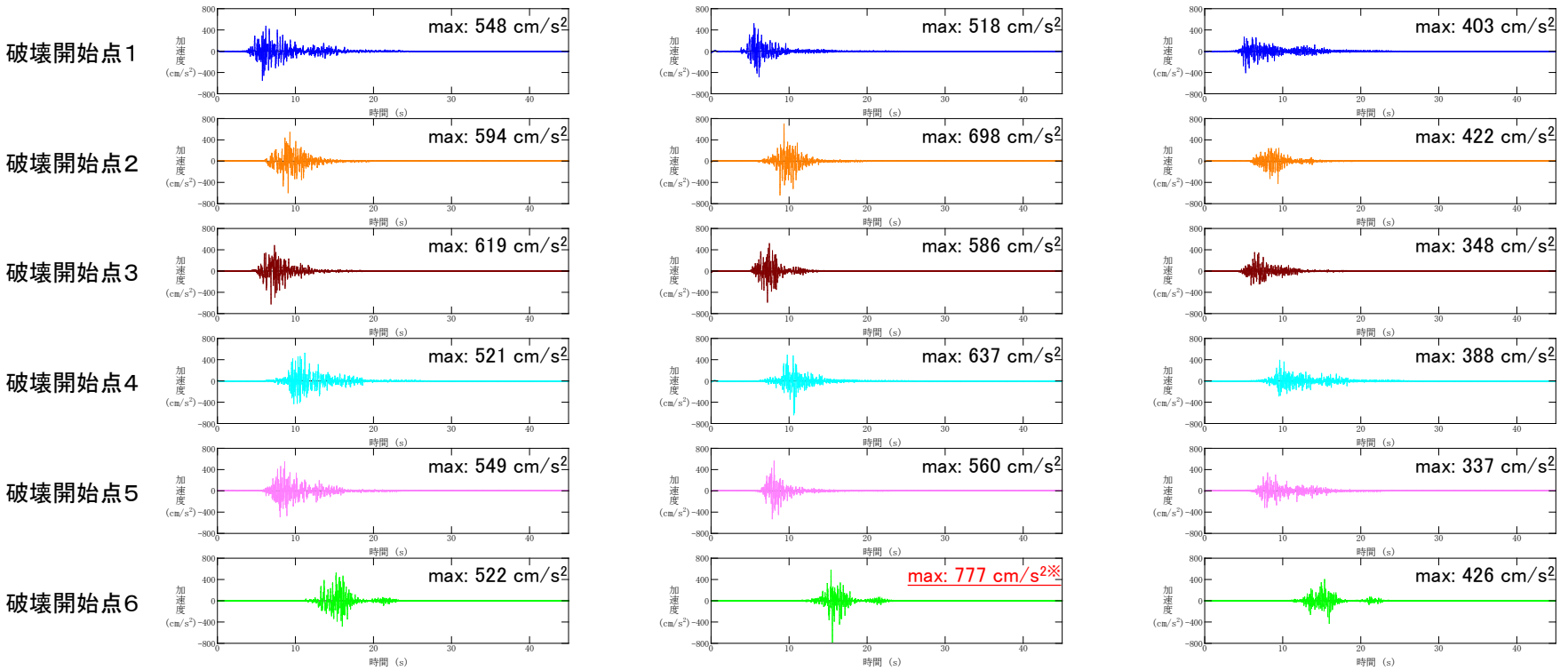
擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P108 再掲

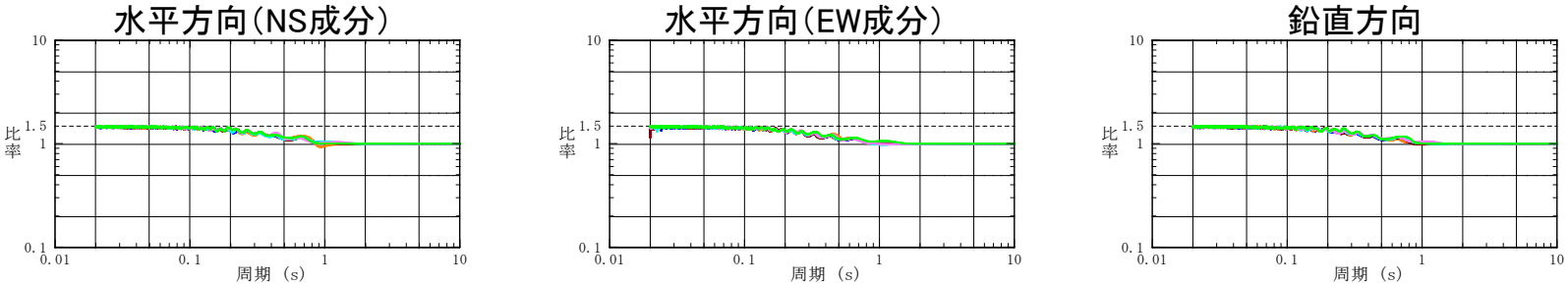
断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　14/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑧中越沖地震の短周期レベルの不確かさを考慮したケース）

※宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果で最も大きい加速度値（水平方向）



加速度時刻歴波形

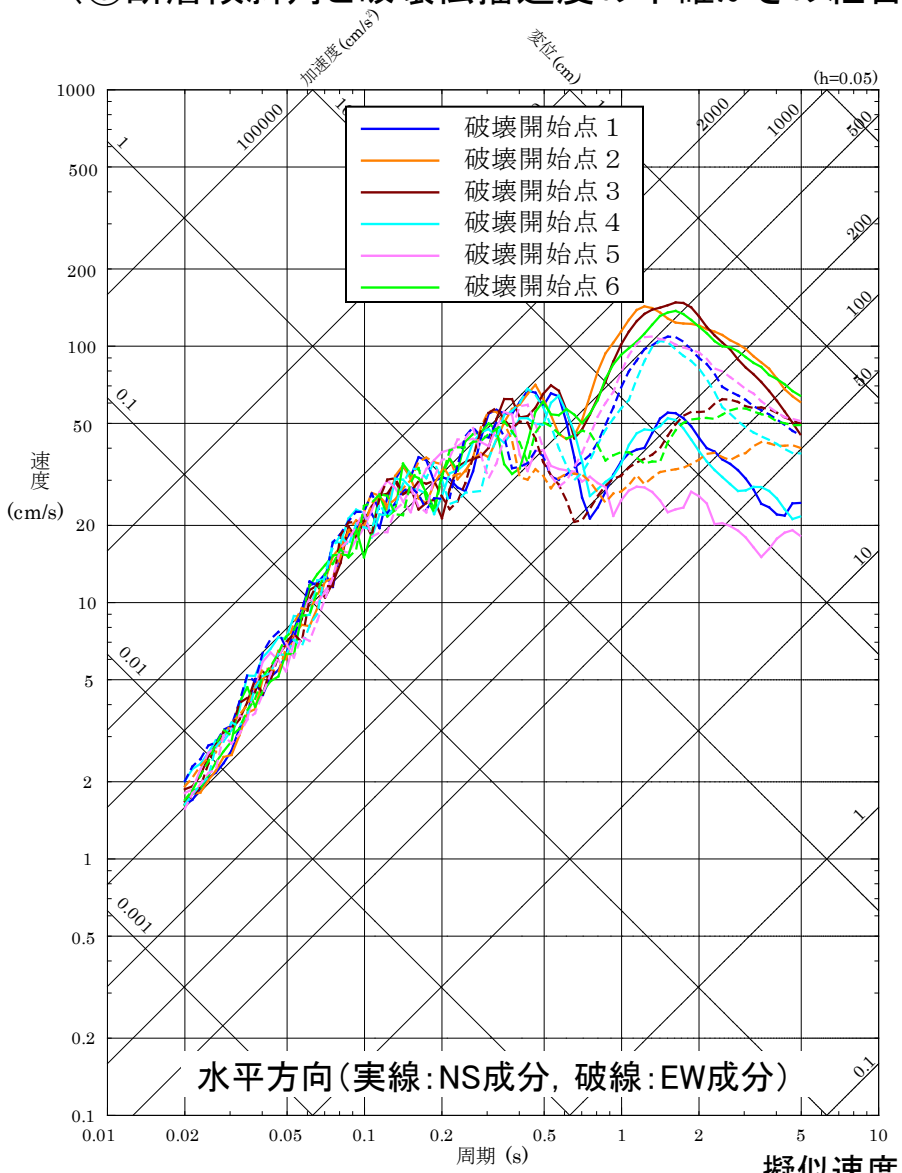


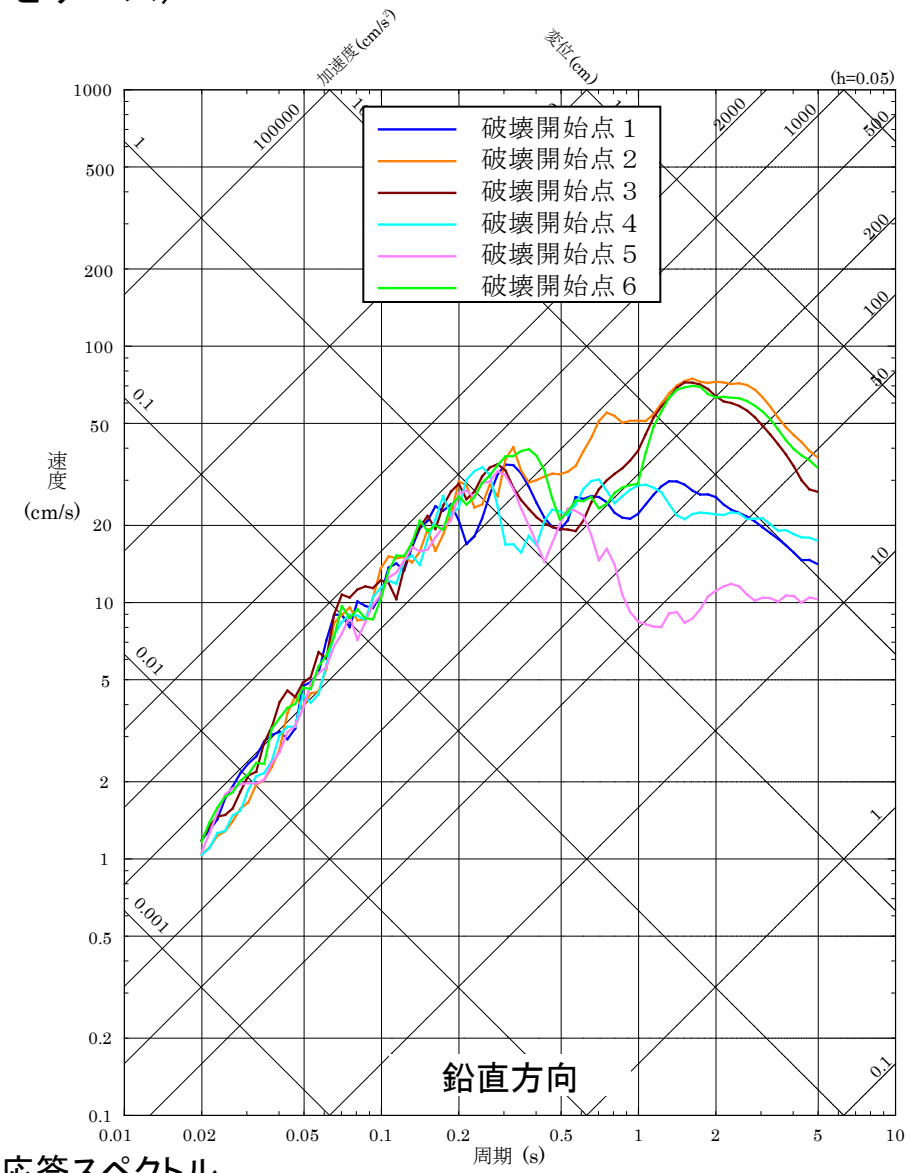
フーリエスペクトル比 （中越沖地震の短周期レベルの不確かさを考慮したケース／基本震源モデル）

第530回審査会合資料1 P109 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　15/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑨断層傾斜角と破壊伝播速度の不確かさの組合せケース）



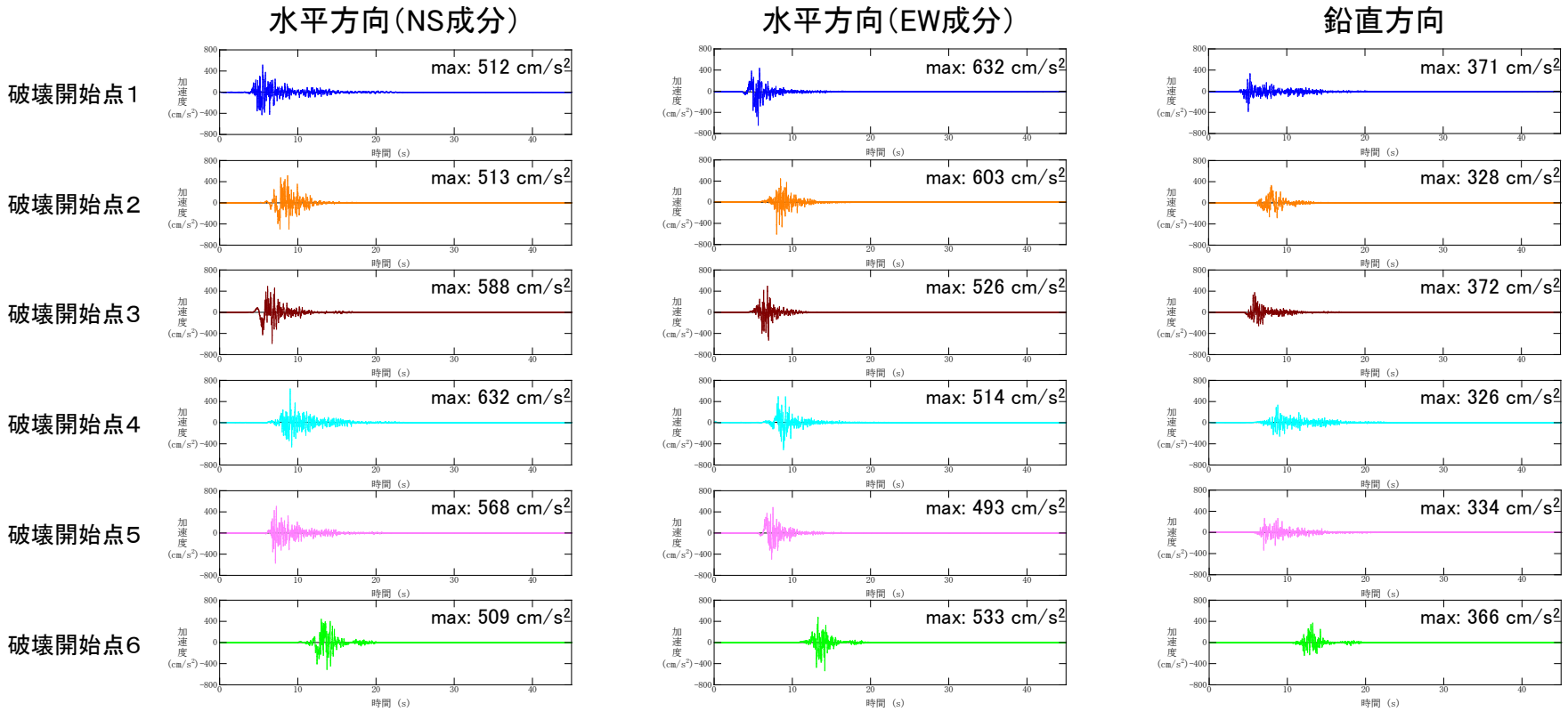


擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P110 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　16/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑨断層傾斜角と破壊伝播速度の不確かさの組合せケース）

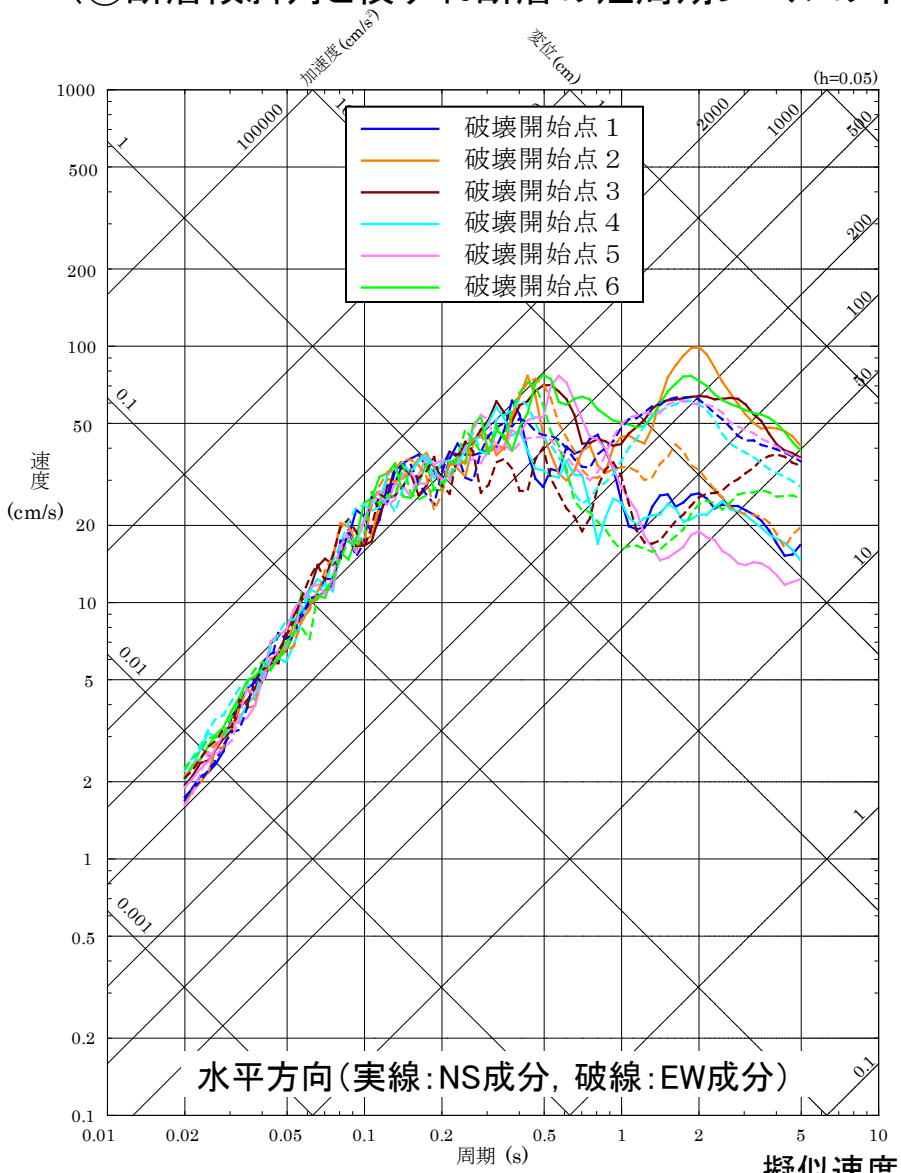


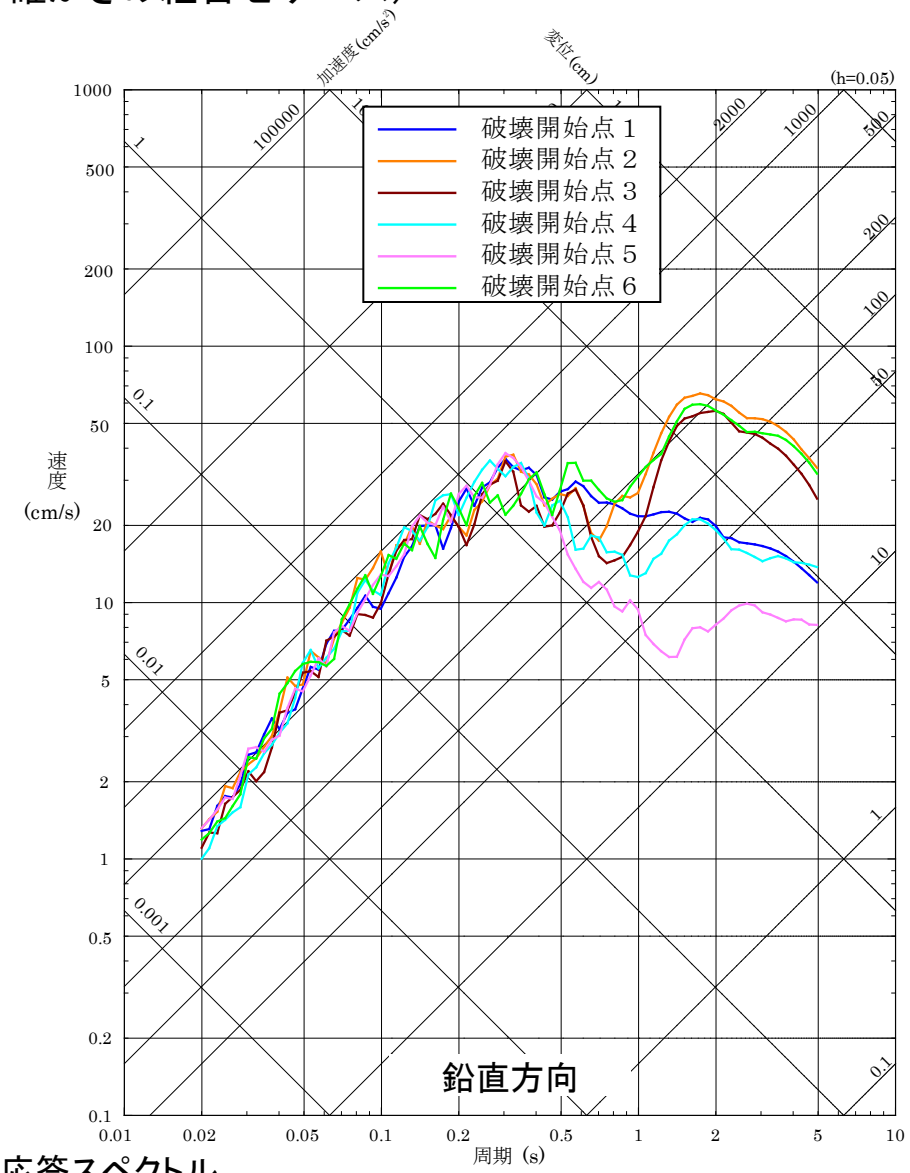
加速度時刻歴波形

第530回審査会合資料1 P111 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　17/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑩断層傾斜角と横ずれ断層の短周期レベルの不確かさの組合せケース）





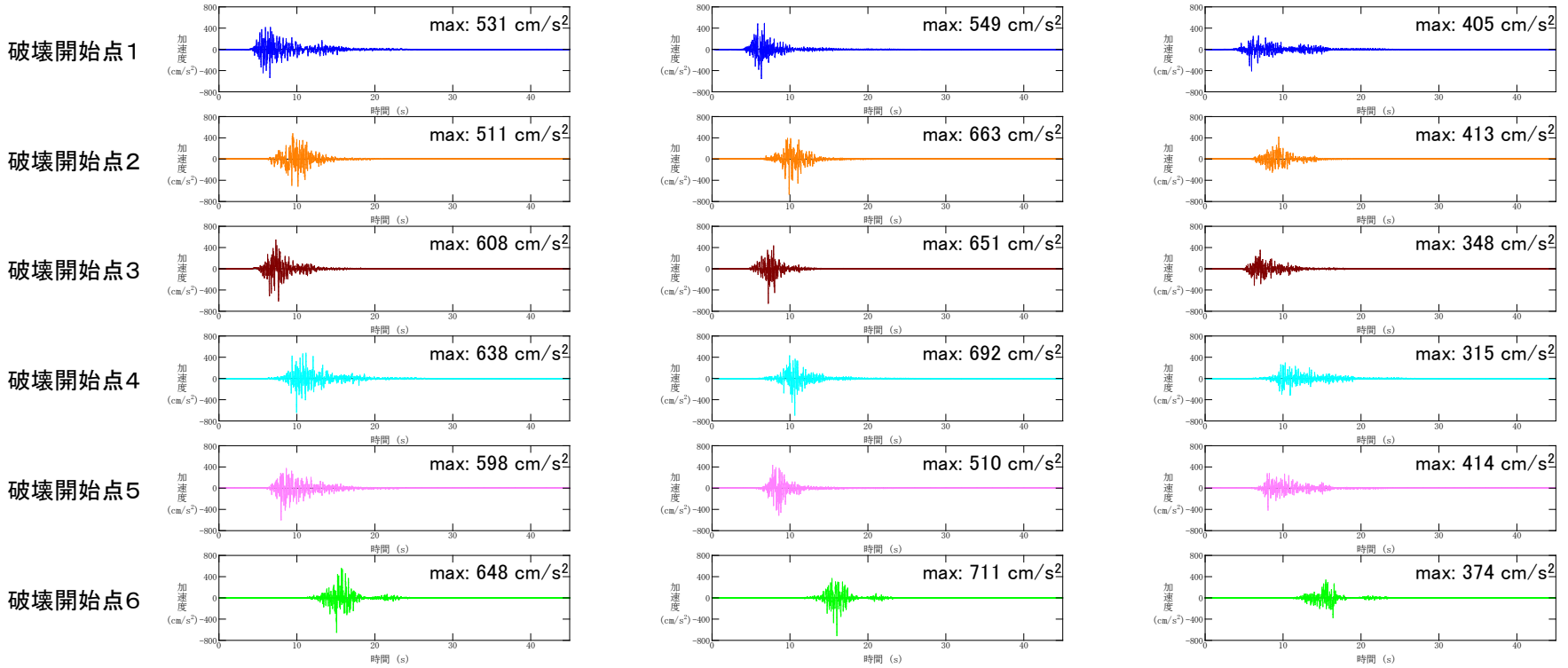
擬似速度応答スペクトル

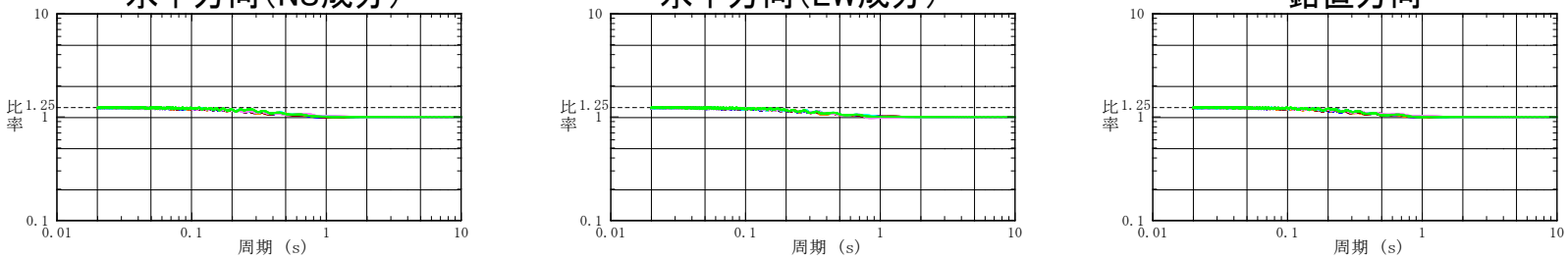
第530回審査会合資料1 P112 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　18/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑩断層傾斜角と横ずれ断層の短周期レベルの不確かさの組合せケース）

加速度時刻歴波形



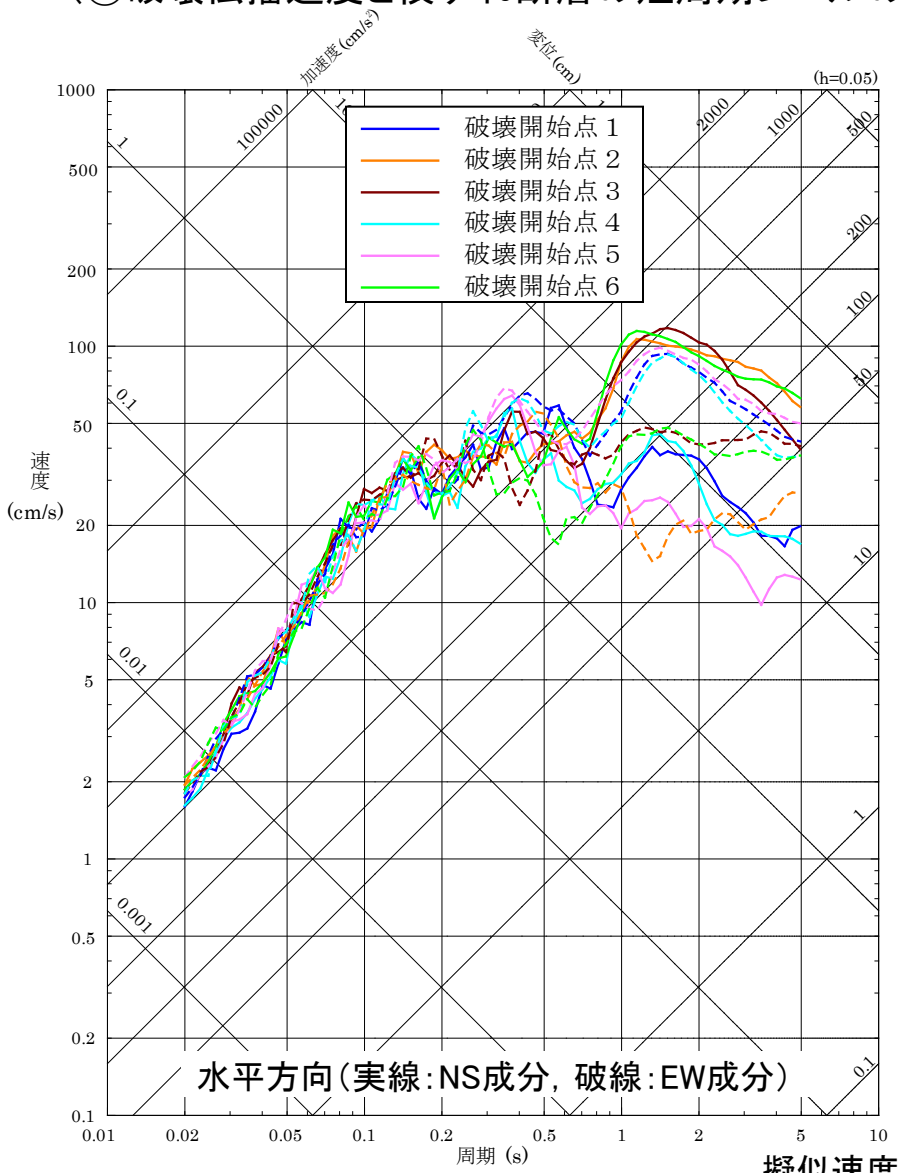


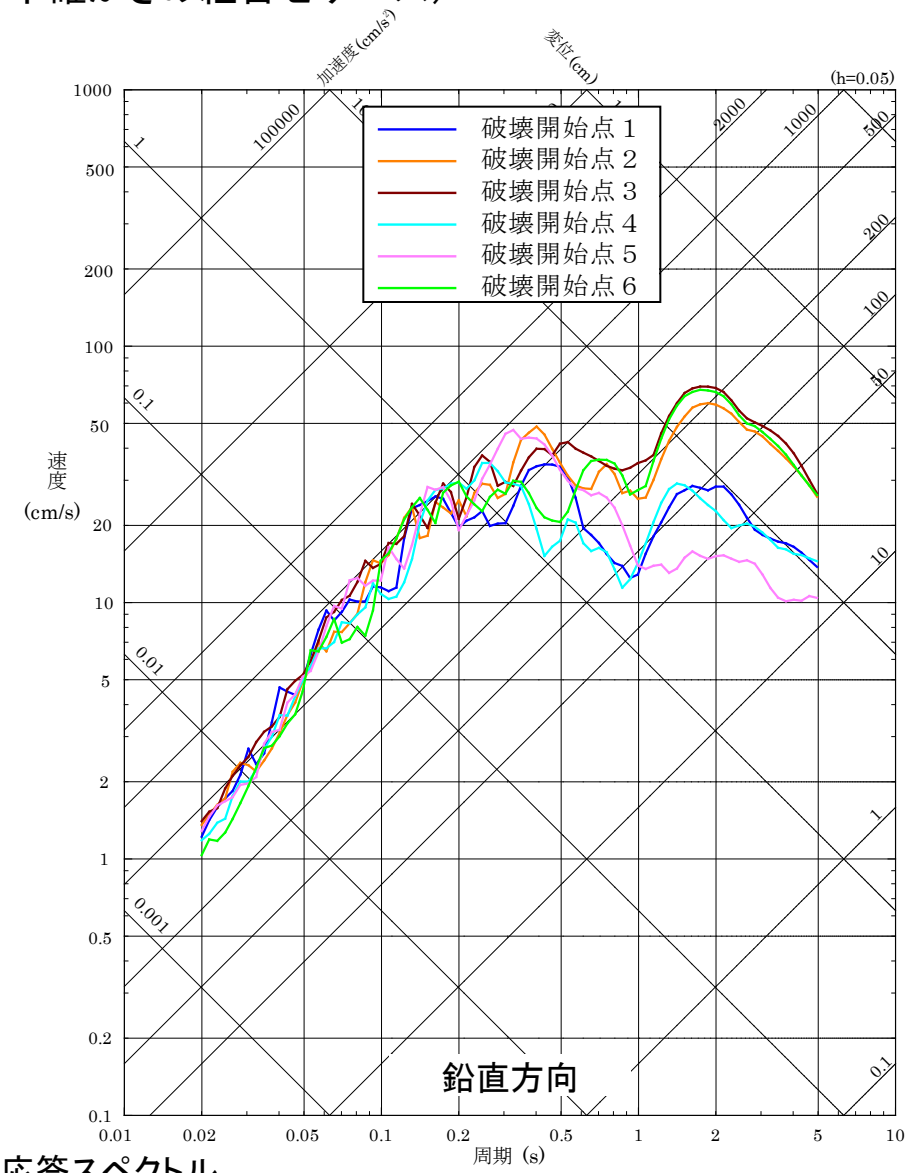
フーリエスペクトル比 （断層傾斜角と短周期レベルの不確かさの組合せケース／断層傾斜角の不確かさケース）

第530回審査会合資料1 P113 再掲

断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　19/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑪破壊伝播速度と横ずれ断層の短周期レベルの不確かさの組合せケース）





擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P114 再掲

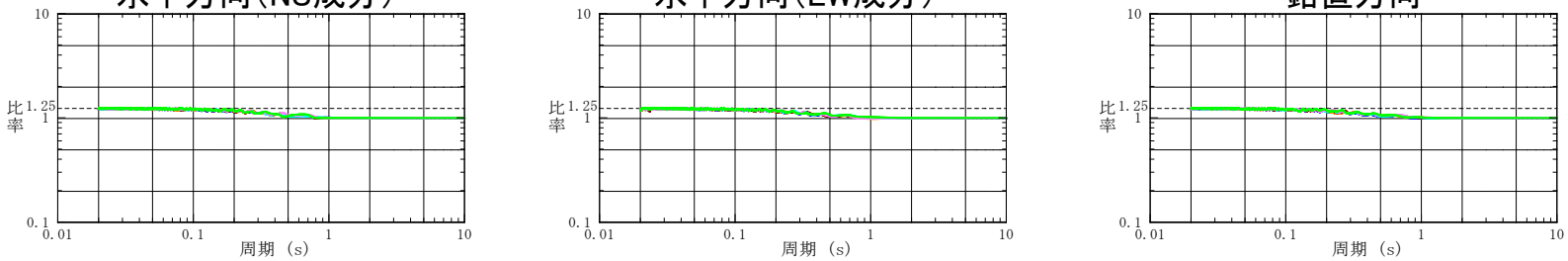
断層モデルを用いた手法による地震動評価結果　20/20

■ 宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑪破壊伝播速度と横ずれ断層の短周期レベルの不確かさの組合せケース）

※宍道断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果で最も大きい加速度値（鉛直方向）

加速度時刻歴波形

	水平方向（NS成分）	水平方向（EW成分）	鉛直方向
破壊開始点1	max: 503 cm/s^2	max: 547 cm/s^2	max: 383 cm/s^2
破壊開始点2	max: 611 cm/s^2	max: 612 cm/s^2	max: 427 cm/s^2
破壊開始点3	max: 587 cm/s^2	max: 568 cm/s^2	max: 441 cm/s^2※
破壊開始点4	max: 508 cm/s^2	max: 565 cm/s^2	max: 372 cm/s^2
破壊開始点5	max: 549 cm/s^2	max: 655 cm/s^2	max: 404 cm/s^2
破壊開始点6	max: 586 cm/s^2	max: 655 cm/s^2	max: 324 cm/s^2



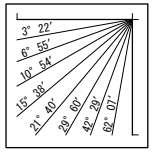
フーリエスペクトル比 （破壊伝播速度と短周期レベルの不確かさの組合せケース／破壊伝播速度の不確かさケース）

断層パラメータの設定根拠（断層傾斜角） 1/4

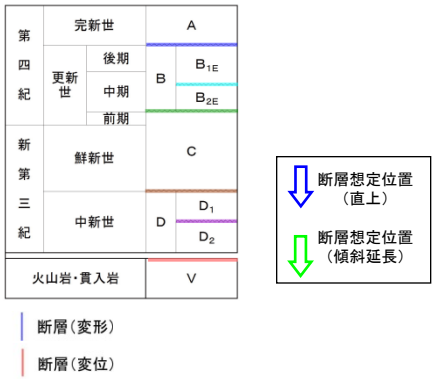
第530回審査会合資料1 P122 加筆・修正

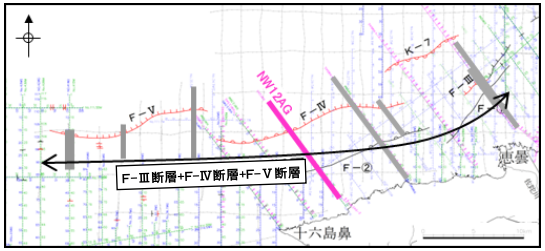
■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層における地質調査結果

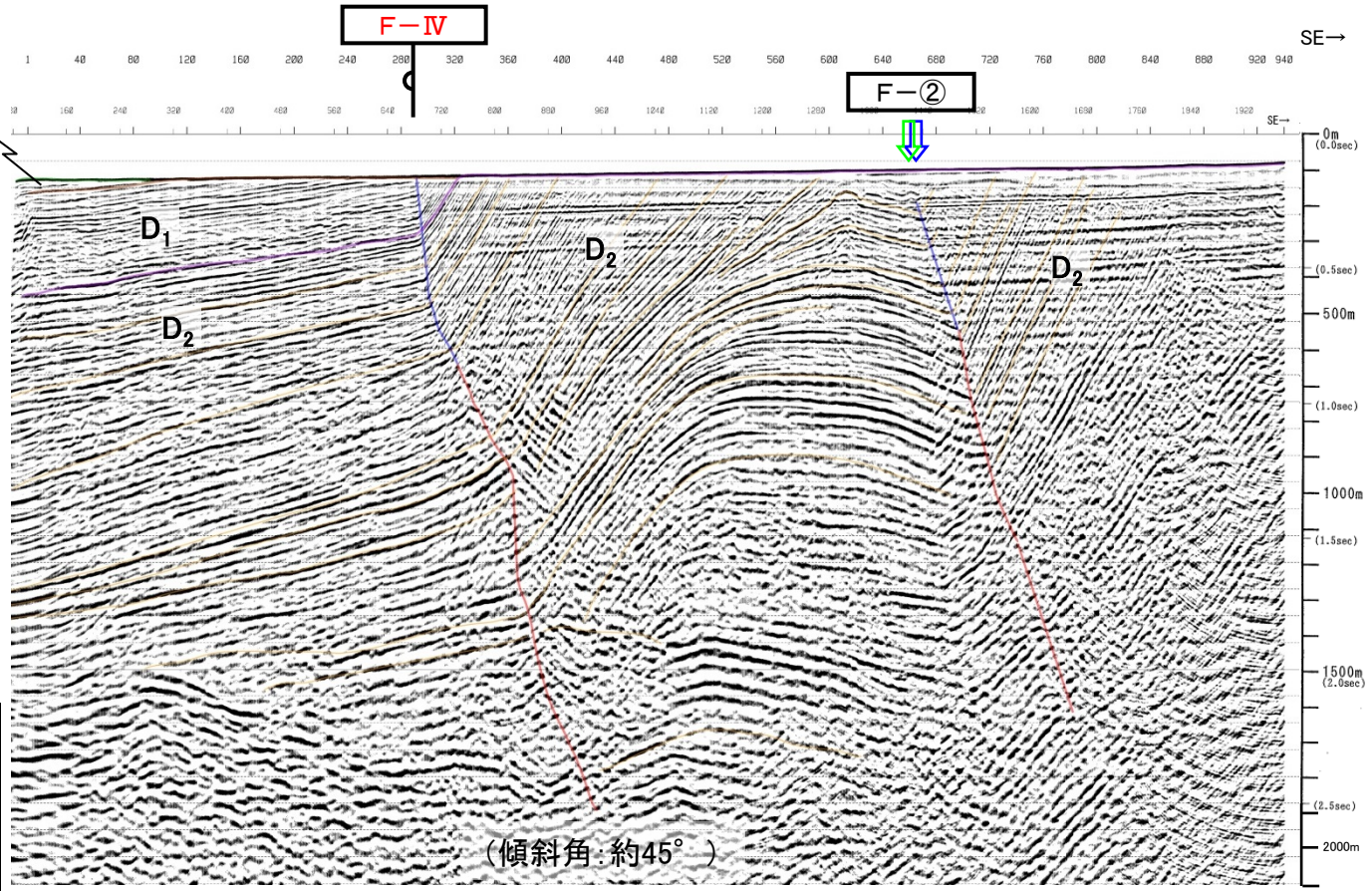
地質調査結果より，F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層は，東北東－西南西走向の低角（南傾斜）逆断層が認められ，B層（更新統）の明瞭な分布が確認できていないこと等から，後期更新世以降の活動を考慮する断層としている。また，更新世以降において，南側隆起（北側沈降）の逆断層運動を示唆するB層の堆積盆の形成は認められず，横ずれ運動を示唆する花弁構造や引きずり込み構造などの特徴的な反射パターンも認められないことから，後期更新世以降の活動様式は不明である。



V.E. ≒ 3







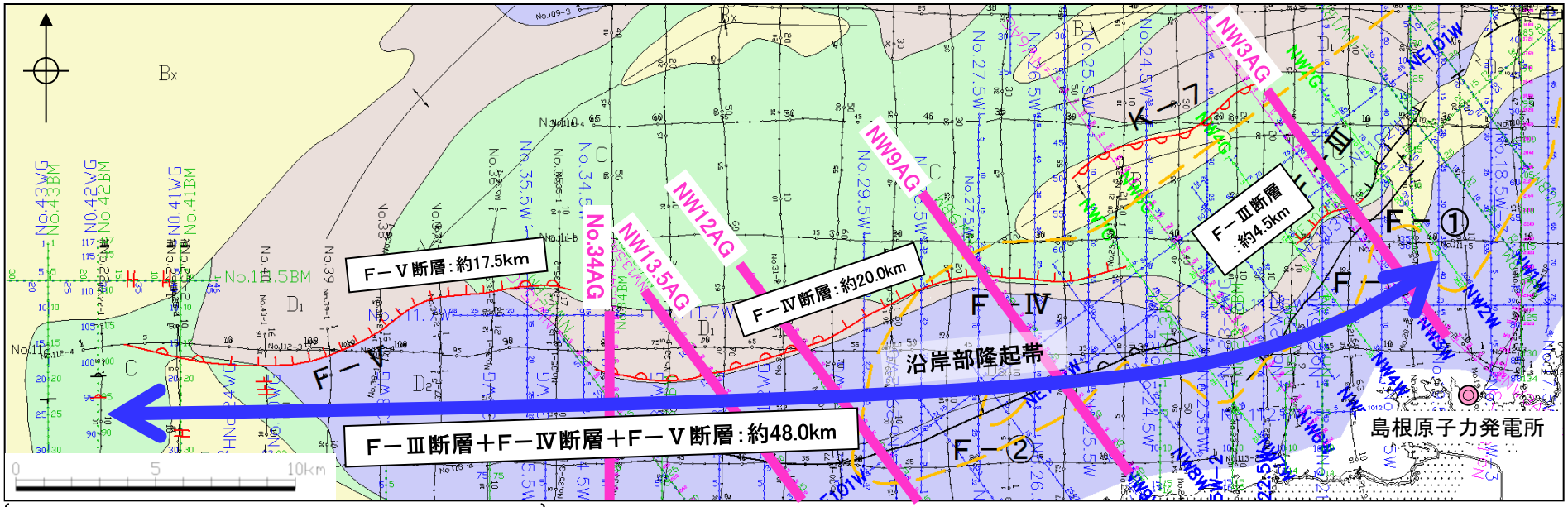
F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の地質調査結果（F-Ⅳ断層のNW12測線）

断層パラメータの設定根拠（断層傾斜角） 2/4

第530回審査会合資料1 P123 加筆・修正

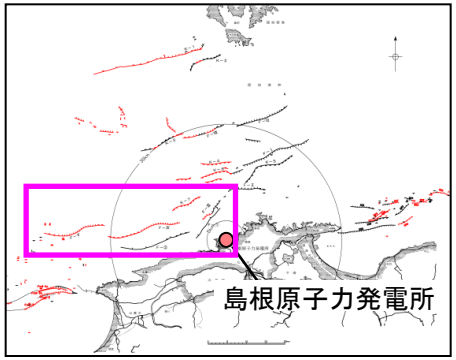
■ F－Ⅲ断層＋F－Ⅳ断層＋F－Ⅴ断層の音波探査記録に基づく断層傾斜角

F－Ⅲ断層＋F－Ⅳ断層＋F－Ⅴ断層の深部の地質構造に関する音波探査記録（エアガン記録）を参照すると，F－Ⅲ断層，F－Ⅳ断層及びF－Ⅴ断層のそれぞれの区間で地質構造上の類似性が認められることから，断層全体を傾斜角の設定区間と考え，平均して傾斜角を求めると35° 程度である。



地質図に記載された断層線の端点は断層が確認される測線と確認されない測線との中点までを表示している。

※A層を取除いた地質図



凡　例

- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの
- No.□/10 中国電力㈱音波探査測線（ｽﾊﾟｰｶｰ）
- No.□AG/1000 中国電力㈱音波探査測線（ｴｱｶﾞﾝ・ﾏﾙﾁﾁｬﾝﾈﾙ）
- No.□WG/10 中国電力㈱音波探査測線（ｳｫｰﾀｰｶﾞﾝ・ﾏﾙﾁﾁｬﾝﾈﾙ）
- No.□BM/10 中国電力㈱音波探査測線（ﾌﾞｰﾏｰ・ﾏﾙﾁﾁｬﾝﾈﾙ）

第四紀
- A 層：完新世堆積層
- B 層：中期～後期更新世堆積層

新第三紀
- C 層：鮮新世～前期更新世堆積層
- D_1 層 ┐ 中新世堆積層
- D_2 層 ┘
- V 層：火山岩・貫入岩
- マルチチャンネル測線により認められたB層分布域

F－Ⅲ断層，F－Ⅳ断層及びF－Ⅴ断層の音波探査記録（エアガン記録）に基づく断層傾斜角

断層	測線名	傾斜角	
F－Ⅲ断層 F－Ⅳ断層 F－Ⅴ断層	NW3AG	25°	35° ※
	NW9AG	30°	
	NW12AG	45°	
	NW13.5AG	35°	
	No.34AG	60°	

※ 平均値（5° ピッチ）とし，敷地に近づく方向に設定。

断層パラメータの設定根拠（断層傾斜角） 3/4

第530回審査会合資料1 P124 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の周辺で発生したM7クラスの大規模地震の断層傾斜角

佐藤ほか（1989）及び地震調査委員会（2002）によると，1943年鳥取地震（M7.2）及び2000年鳥取県西部地震（M7.3）は，それぞれ「断層傾斜角90°」とされている。

1943/9/10　鳥取地震　〔モデル１〕

震源要素：昭和 18/9/10（17：36）　35.52° N，134.08° E，H＝0 km，M＝7.2

出　　典：Kanamori (1972b), PEPI, 5, 426-434.

・断層パラメーター決定手順

P 波初動による発震機構解は垂直横ずれ断層を示し，その１節面は地表に現われた断層の走向にほぼ一致する。また，本震後約１カ月間の余震は，ほぼ東西に 40 km ほどの長さで分布し，その深さは 13 km 程度に分布していることから，断層面を推定した▶ d＝0 km，θ＝N(70～80)° E，δ＝90°，λ＝180°。

一方，三角測量の結果より得られた，断層からの距離に対する断層に平行な水平変動量の分布を，Knopoff (1958) の理論曲線と比較することにより，断層の幅と食い違い量を推定した▶ L＝(30～40) km，W＝(8～13) km，U＝2.5 m。

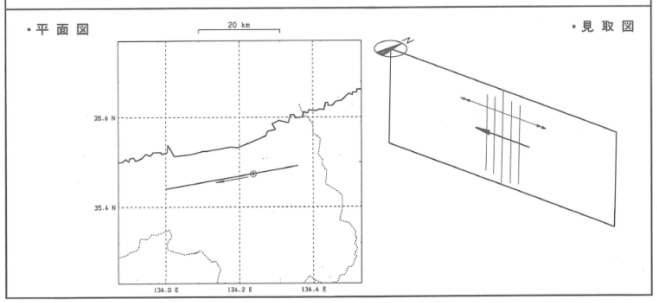
次に，動的パラメターを推定した。無限媒質中に置かれた長さ L，幅 2 W の断層による理論地震記象を Haskell の方法により計算し，阿武山で観測された地震記象と比較した。まず L＝33 km，θ＝N 80° E に固定し，断層面の幅（8 km または 13 km），破壊伝播モード（東から西への伝播または中央より両側への伝播），および破壊速度の組合せをいろいろに変えて，理論波形と観測波形との最もよい一致を求めた。その際の振幅比較より，W＝13 km なら U＝2.5 m，W＝8 km なら U＝4 m が最適値となった▶ L＝33 km，W＝13 km，θ＝N 80° E，V_{rup}＝(2～3) km/s，θ_{rup}＝0° & 180° (bilateral)。ここで V_{rup}＝2.3 km/s，U＝2.5 m と固定し，地震波形の立ち上がり部分を比較することにより，震源関数の立ち上がり時間を推定した▶ V_{rup}＝2.3 km/s，τ＝3 sec。これらの値を用いると，断層面の食い違い速度 U/τ は 84 cm/s，すべり速度は 42 cm/s と見積られる。

地震モーメントおよび応力降下量は，μ＝3.4×10^{11}dyne/cm^2 として，Mo＝μULW および $\Delta\sigma$＝4/π・$\mu U/W$ により計算している▶ Mo＝3.6×10^{26}dyne・cm，$\Delta\sigma$＝83 bar。また，以上の結果を用いて，幾つかの理論式に基づき，有効応力の算定を行なった▶ σ_{eff}＝(30～100) bar。この値は応力降下量とほぼ同じであり，この地震で有効応力がほぼ完全に解放されたことを示していると述べている。

・静的断層パラメーターリスト

N(° N)	E(° E)	d(km)	θ(°)	δ(°)	λ(°)	L(km)	W(km)	U(cm)
35.44*	134.00*	0	80	90	180	33	13	250

* 論文中の Fig. 3 より読取り。



1943年鳥取地震 ［佐藤ほか（1989）］

表１　強震動試算に用いた鳥取県西部地震の震源特性のパラメーター一覧

震源特性	断層パラメータ		ケース1（糸静中間報告の手法を用いたケース）	ケース２（観測記録をできるだけ説明可能なケース）
地震の規模	気象庁マグニチュード(M) 7.3。			
巨視的震源特性	震源断層の位置		図2参照	同左
	走向		図2参照	同左
	傾斜角		90 °	同左
	震源断層の長さ		27 km *1	同左
	震源断層幅		14 km	同左
	震源断層の面積		378 km^2 *2	同左
	震源断層の上端～下端深さ		2～16 km	同左
	地震モーメント		7.0E+18 N・m	9.6E+18 N・m
	平均すべり量		56 cm	77 cm
	加速度震源スペクトル短周期レベル		1.0E+19 N・m/s^2	1.1E+19 N・m/s^2
微視的震源特性	全アスペリティ	地震モーメント	3.1E+18 N・m	7.9E+18 N・m
		総面積	83 km^2	108 km^2
		平均すべり量	112 cm	221 cm
	第１アスペリティ	面積	60 km^2 *3	54 km^2 *4
		平均すべり量	125 cm	221 cm
		地震モーメント	2.5E+18 N・m	3.9E+18 N・m
		実効応力	10.6 MPa	16.0 MPa
		ライズタイム	1.7 sec	0.8 sec
	第２アスペリティ	面積	23 km^2 *5	54 km^2 *6
		平均すべり量	77 cm	221 cm
		地震モーメント	5.7E+17 N・m	3.9E+18 N・m
		実効応力	10.6 MPa	11.3 MPa
		ライズタイム	0.9 sec	1.2 sec
	背景領域	地震モーメント	3.9E+18 N・m	1.7E+18 N・m
		面積	295 km^2 *7	270 km^2 *8
		平均すべり量	40 cm	19 cm
		実効応力	3.8 MPa	0.9 MPa
		ライズタイム	3.0 sec	3.0 sec
	fmax		6 Hz	同左
その他の震源特性等	破壊開始点		図３参照（深さ約14km）	図３参照（深さ約10km）
	破壊伝播形式		放射状	同左
	破壊伝播速度		2.3 km/s	2.3 km/s（第1アスペリティのみ3.15）

※震源域のS波速度3.5km/s、剛性率は3.3×10^{10}N/m^2

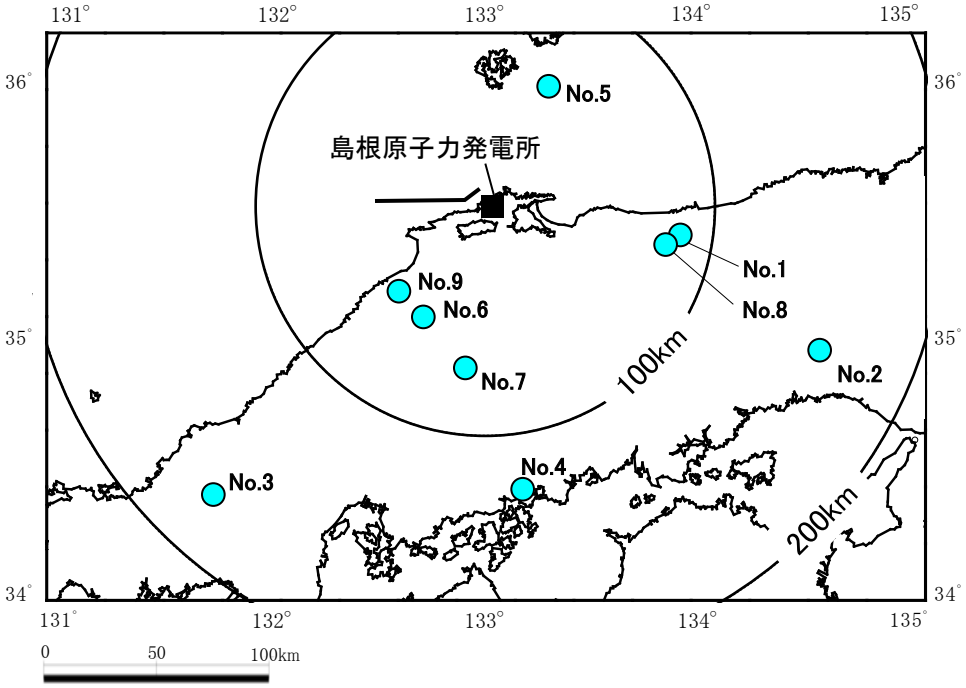
2000年鳥取県西部地震 ［地震調査委員会（2002）］

断層パラメータの設定根拠（断層傾斜角） 4/4

第530回審査会合資料1 P125加筆・修正

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の周辺で発生した中小地震の断層傾斜角

F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の周辺における横ずれ断層の主な中小地震の断層傾斜角を整理すると，平均的には80°程度であり，最も傾斜しているもので71°である。



F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の周辺の横ずれ断層の主な中小地震の震央分布

F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の周辺の横ずれ断層の主な中小地震の断層傾斜角

No	発生年月日	地　震	M※1	傾斜角※2	
1	1983. 10. 31	鳥取中部の地震	6.2	85°	
2	1984. 5. 30	山崎断層の地震	5.6	90°	
3	1997. 6. 25	山口・島根県境の地震	6.6	76°	
4	1999. 7. 16	広島県南東部の地震	4.5	83°	71°
5	2011. 4. 29	隠岐島近海の地震	4.0	80°	76°
6	2011. 6. 4	島根県東部の地震	5.2	87°	
7	2011. 11. 21	広島県北部の地震	5.4	80°	
8	2016. 10. 21	鳥取県中部の地震	6.6	80°	
9	2018. 4. 9	島根県西部の地震	6.1	84°	

※1　気象庁地震カタログ
※2　No.1，2 ：佐藤ほか（1989）
No.3～9：防災科学技術研究所の広帯域地震観測網（F-net），余震分布より走向を特定できる場合は，それに対応する断層面の傾斜角を記載

第530回審査会合
資料1 P276加筆・修正

断層パラメータの設定根拠（断層傾斜角の不確かさを考慮したケースのF－Ⅲ断層のすべり角） 1/2

- 塚原・小林(1991)による広域応力場の研究や敷地内の測定結果から，敷地周辺の現在の応力場は概ね東西圧縮が卓越している。
- F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の周辺で発生した現在の応力場による主な地震について下表のとおり整理すると，走向，傾斜角によらず横ずれ成分が卓越している。
- 以上のことから，F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層が活動する場合，横ずれ成分が卓越すると考えられるが，当該断層周辺で発生した主な地震の中では若干縦ずれ成分も認められることから，その中で最も縦ずれ成分の大きいすべり角（158°）を考慮することとし，F-Ⅲ断層の走向が北東－南西方向であることを踏まえ，応力場と走向の関係から断層傾斜角の不確かさを考慮したケースのF-Ⅲ断層のすべり角は150°に設定する。

F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層の周辺で発生した主な地震の走向及びすべり角

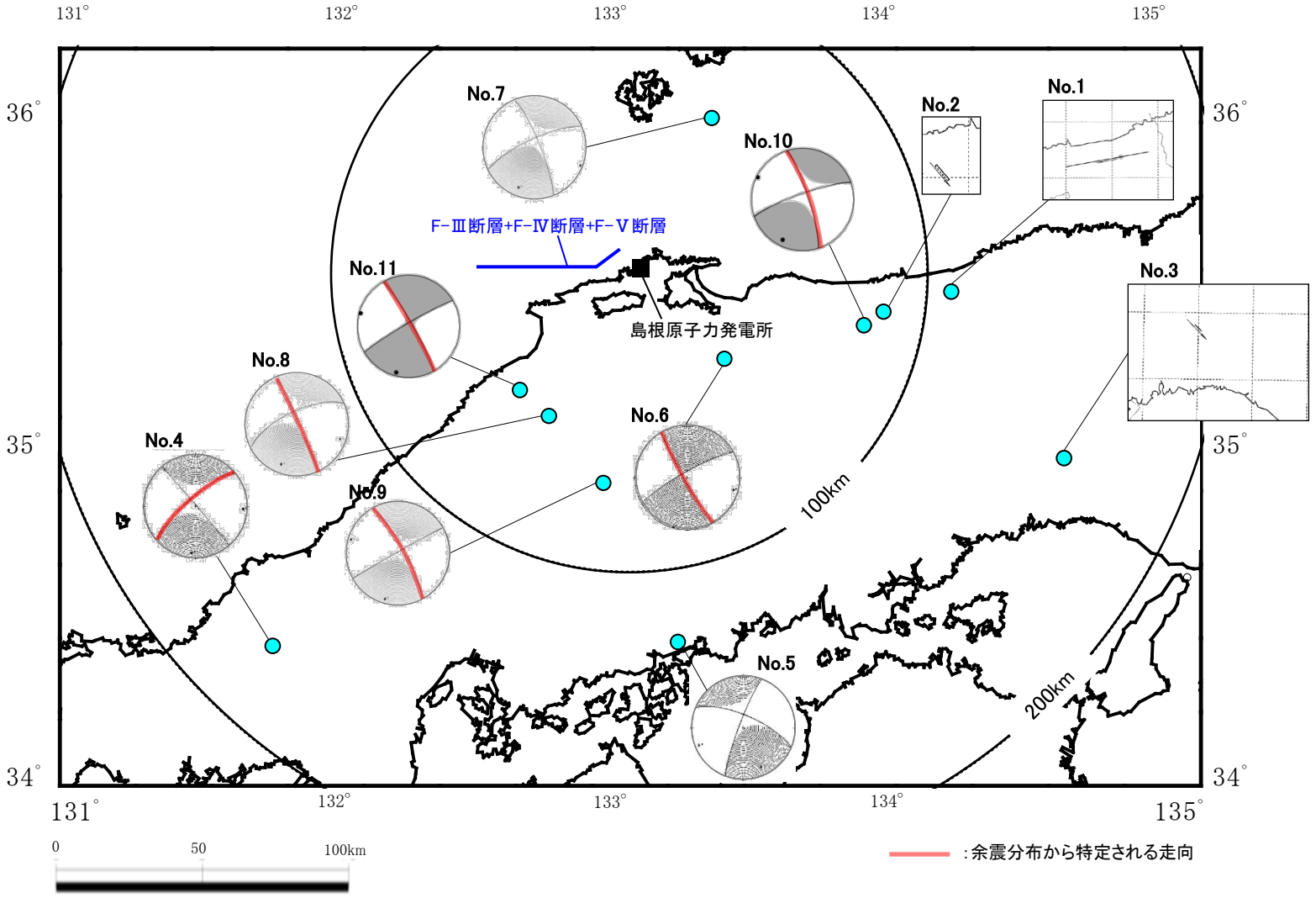
No	発生年月日	地　震	M	傾斜角	走向※1	すべり角※1,2
1	1943. 9. 10	鳥取地震	7.2	90°	80°	180°
2	1983. 10. 31	鳥取中部の地震	6.2	85°	140°	180°（0°）
3	1984. 5. 30	山崎断層の地震	5.6	90°	135°	180°（0°）
4	1997. 6. 25	山口・島根県境の地震	6.6	76°	49°	179°
5	1999. 7. 16	広島県南東部の地震	4.5	83°　71°	21°　113°	161°　172°（8°）
6	2000. 10. 6	鳥取県西部地震	7.3	90°	150°	189°（-9°）
7	2011. 4. 29	隠岐島近海の地震	4.0	80°　76°	158°　65°	165°（15°）　170°
8	2011. 6. 4	島根県東部の地震	5.2	87°	156°	158°（22°）
9	2011. 11. 21	広島県北部の地震	5.4	80°	151°	179°（1°）
10	2016. 10. 21	鳥取県中部の地震	6.6	80°	162°	171°（9°）
11	2018. 4. 9	島根県西部の地震	6.1	84°	150°	175°（5°）

※1　No.1～3　：佐藤ほか（1989）
　　No.4～11：防災科学技術研究所の広帯域地震観測網（F-net），余震分布より走向を特定できる場合は，その走向及び対応するすべり角を記載
※2　左横ずれ断層の地震は右横ずれ断層のすべり角に換算，（ ）内は換算前の値

第530回審査会合
資料1 P277加筆・修正

断層パラメータの設定根拠（断層傾斜角の不確かさを考慮したケースのF－Ⅲ断層のすべり角） 2/2

■ 前頁の地震の震源メカニズム解及び断層の分布を以下に示す。

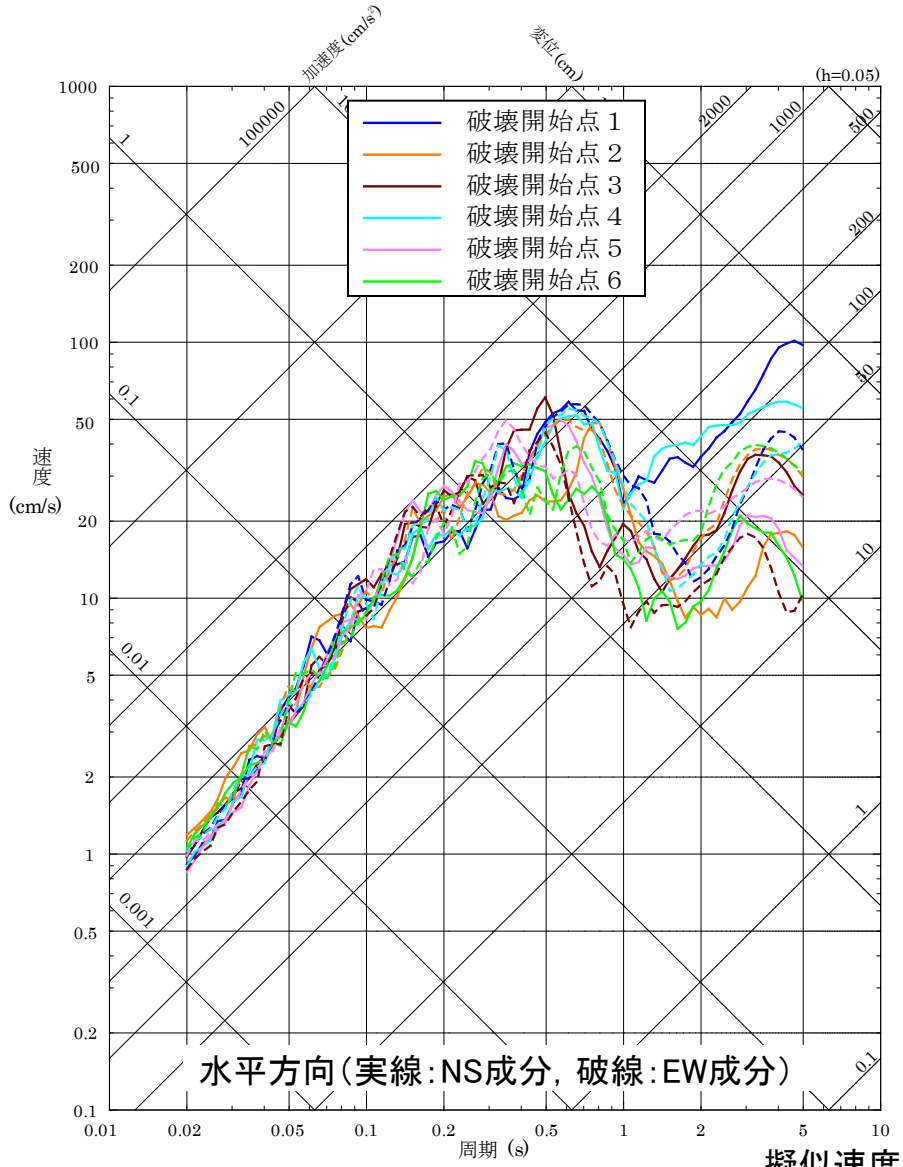


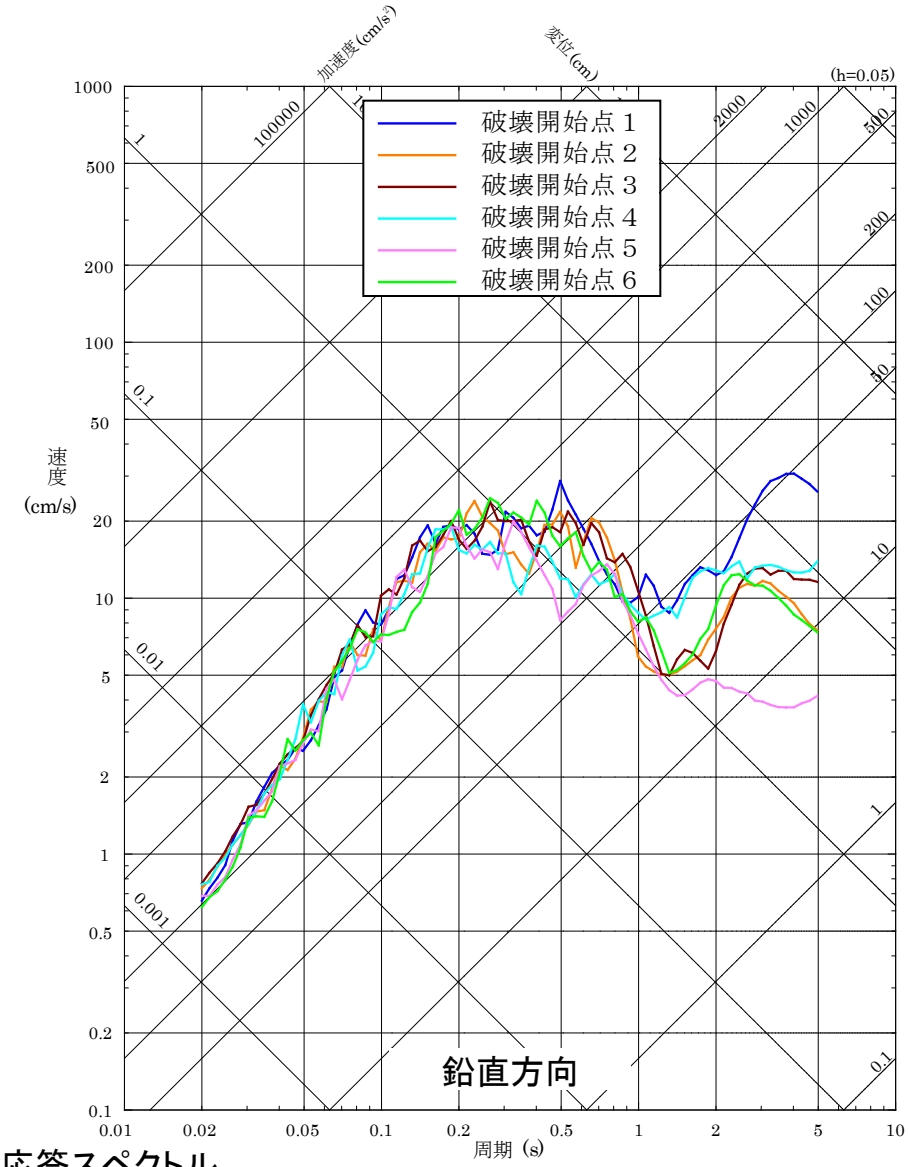
敷地周辺の横ずれ断層の主な地震の震央位置，震源メカニズム解及び断層分布

断層モデルによる地震動評価結果 1/16

第530回審査会合資料1 P147 再掲

■ F－Ⅲ断層＋F－Ⅳ断層＋F－Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（①基本震源モデル及び②破壊開始点の不確かさを考慮したケース）



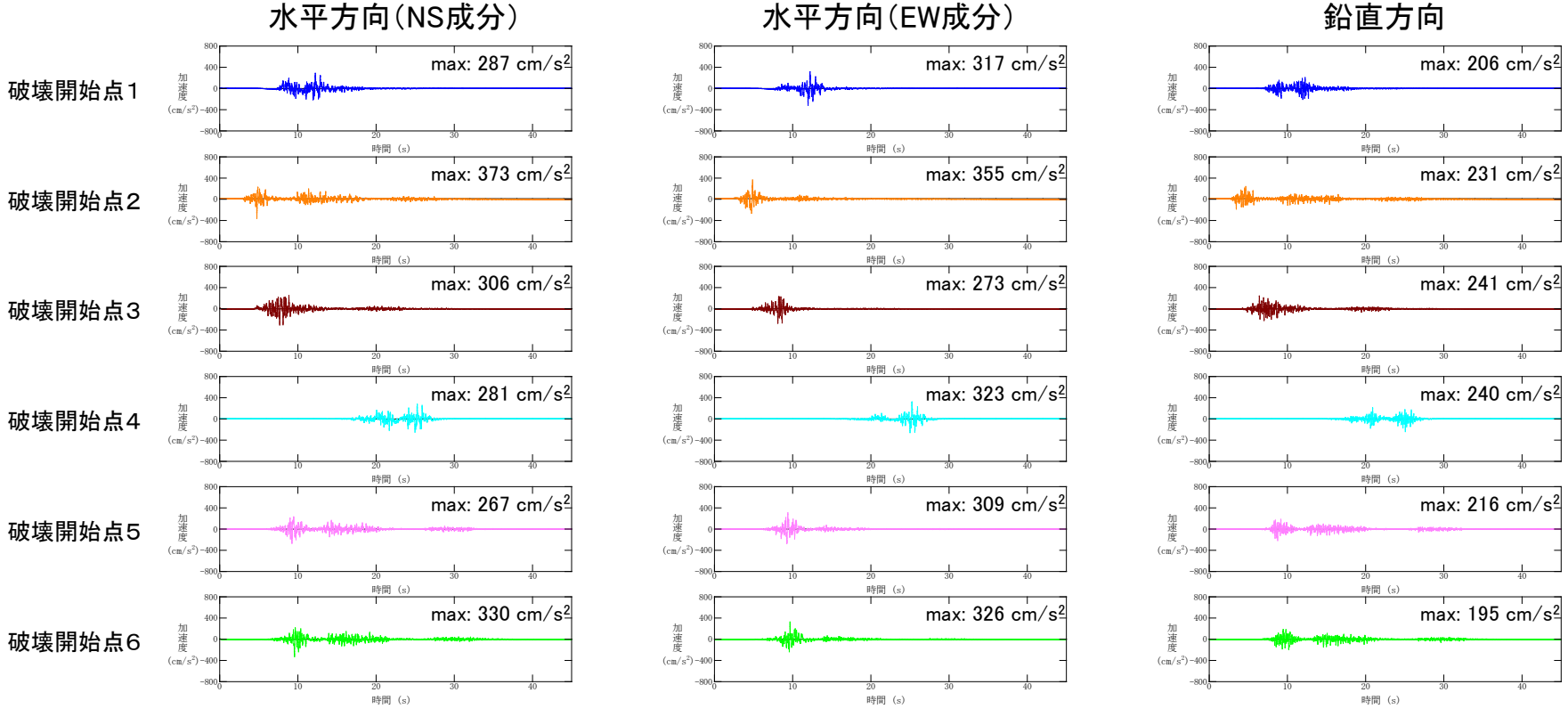


擬似速度応答スペクトル

断層モデルによる地震動評価結果 2/16

第530回審査会合資料1 P148 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（①基本震源モデル及び②破壊開始点の不確かさを考慮したケース）

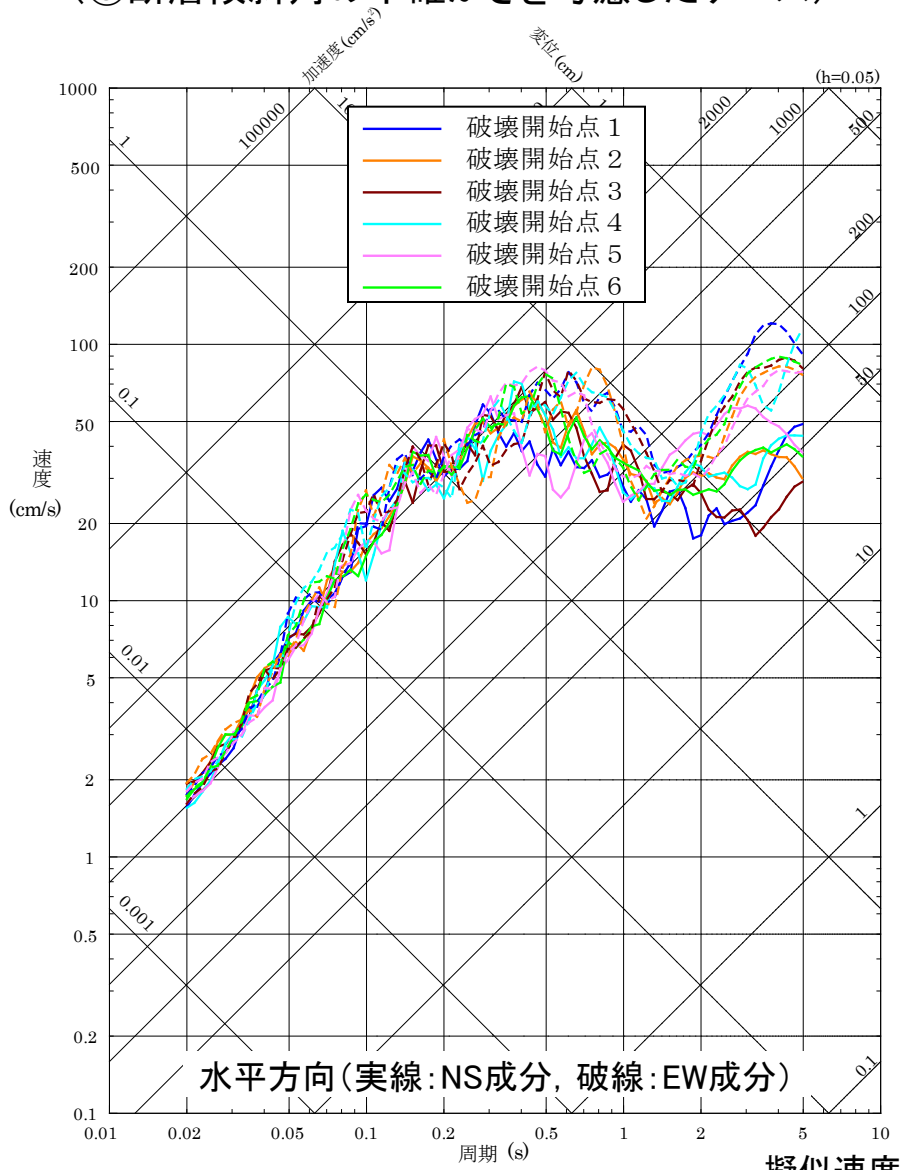


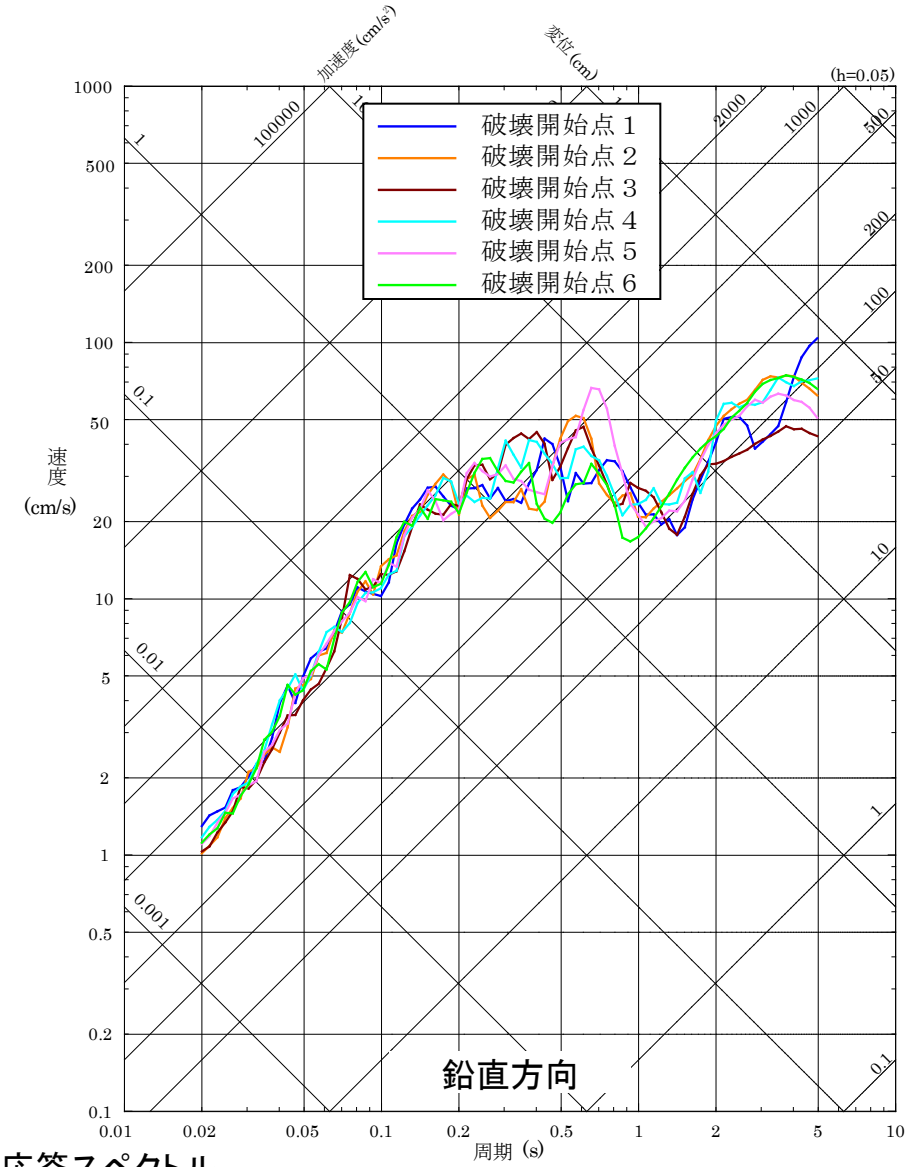
加速度時刻歴波形

断層モデルによる地震動評価結果 3/16

第530回審査会合資料1 P149 再掲

■ F－Ⅲ断層＋F－Ⅳ断層＋F－Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（③断層傾斜角の不確かさを考慮したケース）





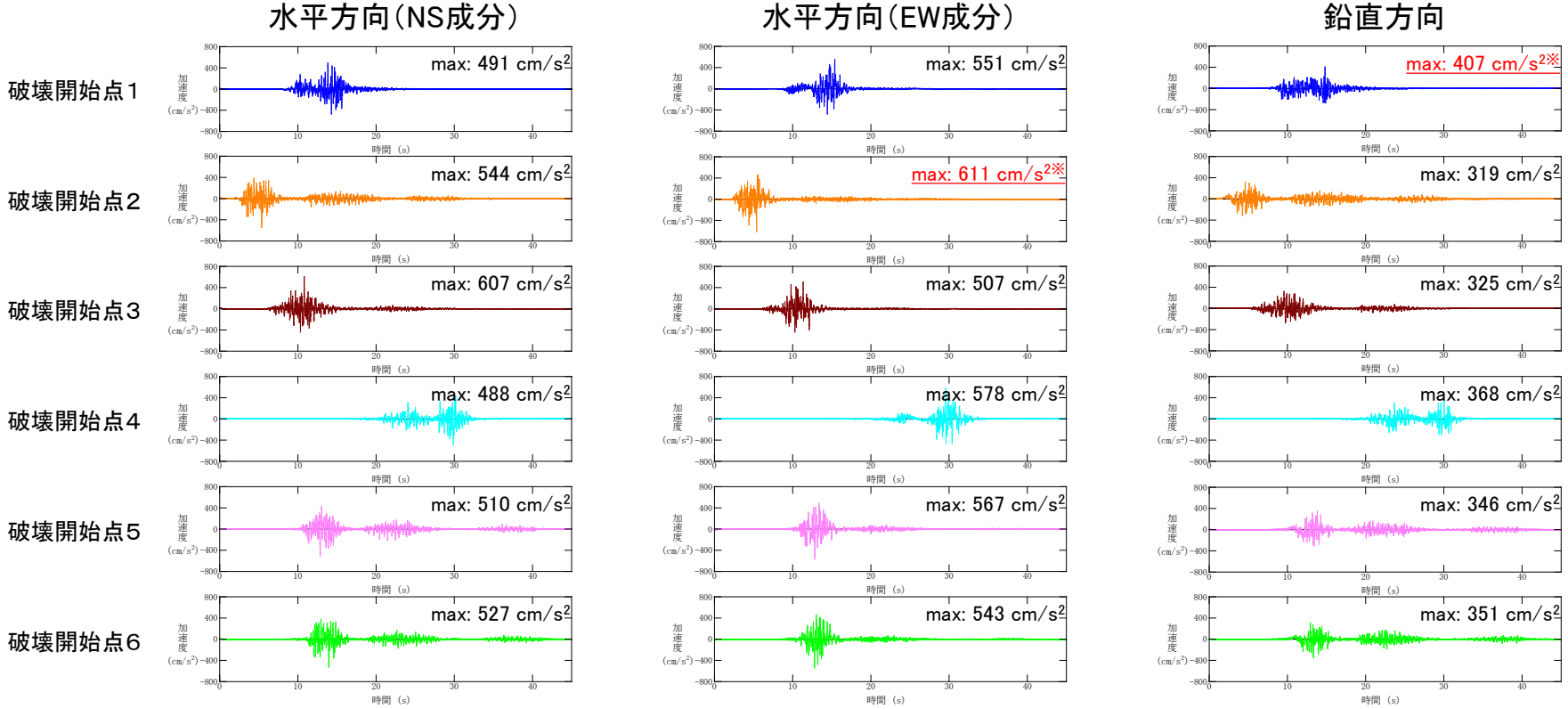
擬似速度応答スペクトル

第530回審査会合資料1 P150 再掲

断層モデルによる地震動評価結果 4/16

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果（③断層傾斜角の不確かさを考慮したケース）

※F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果で最も大きい加速度値（水平・鉛直方向）

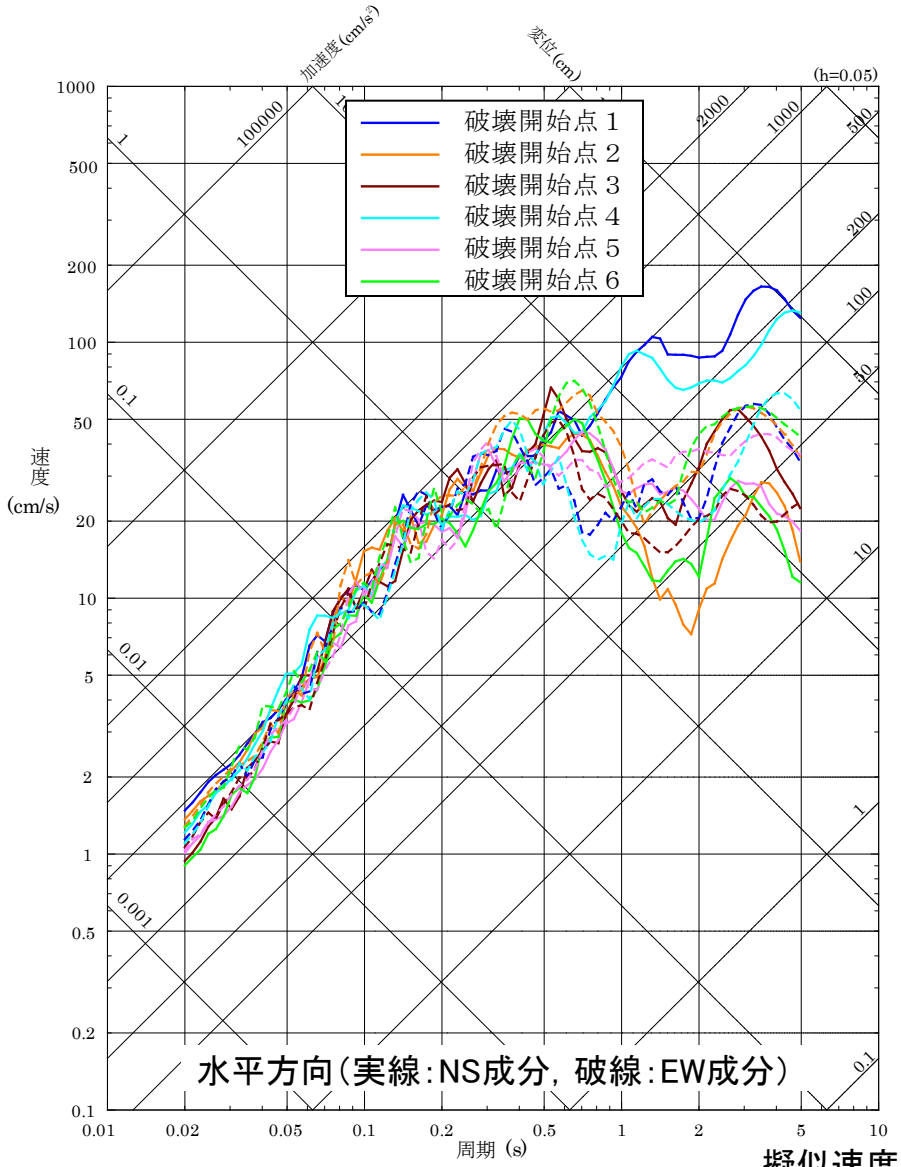


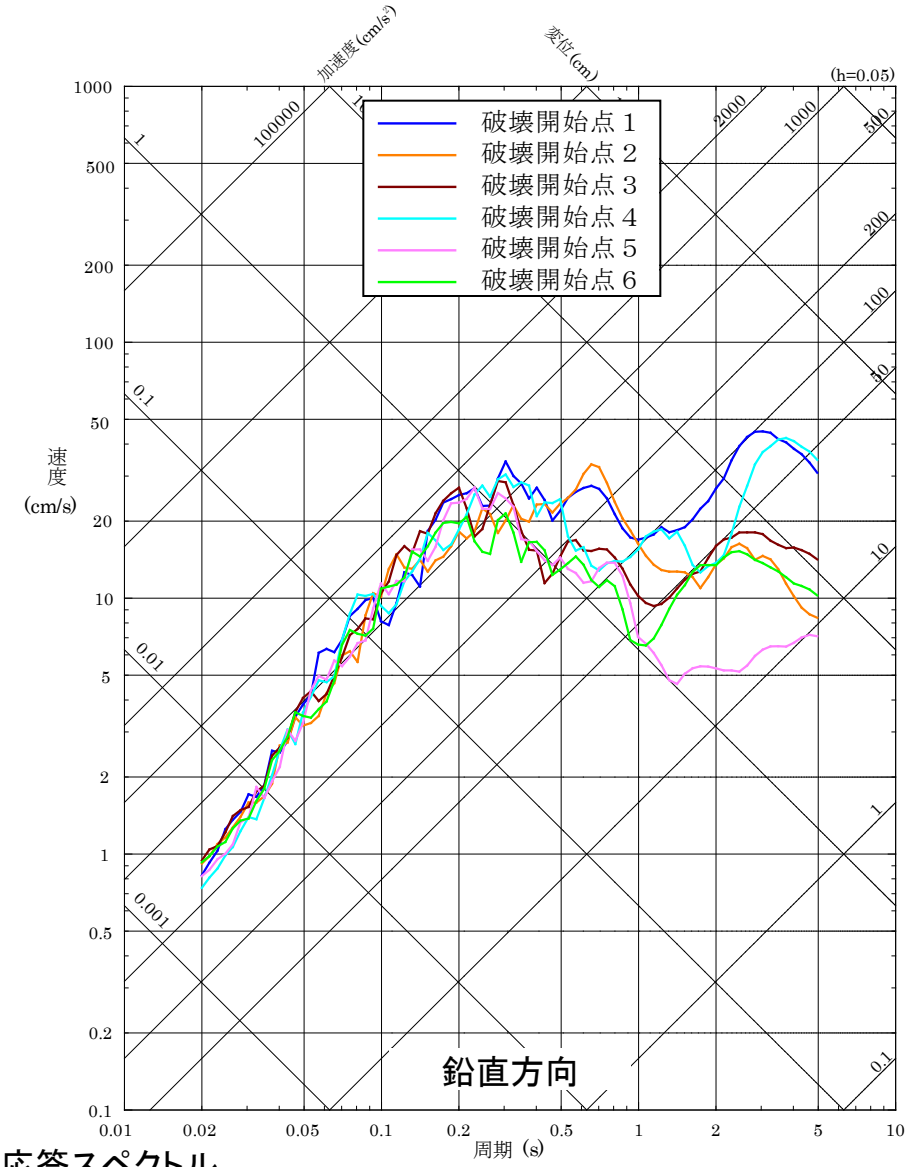
加速度時刻歴波形

断層モデルによる地震動評価結果 5/16

第530回審査会合資料1 P151 再掲

■ F－Ⅲ断層＋F－Ⅳ断層＋F－Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（④破壊伝播速度の不確かさを考慮したケース）



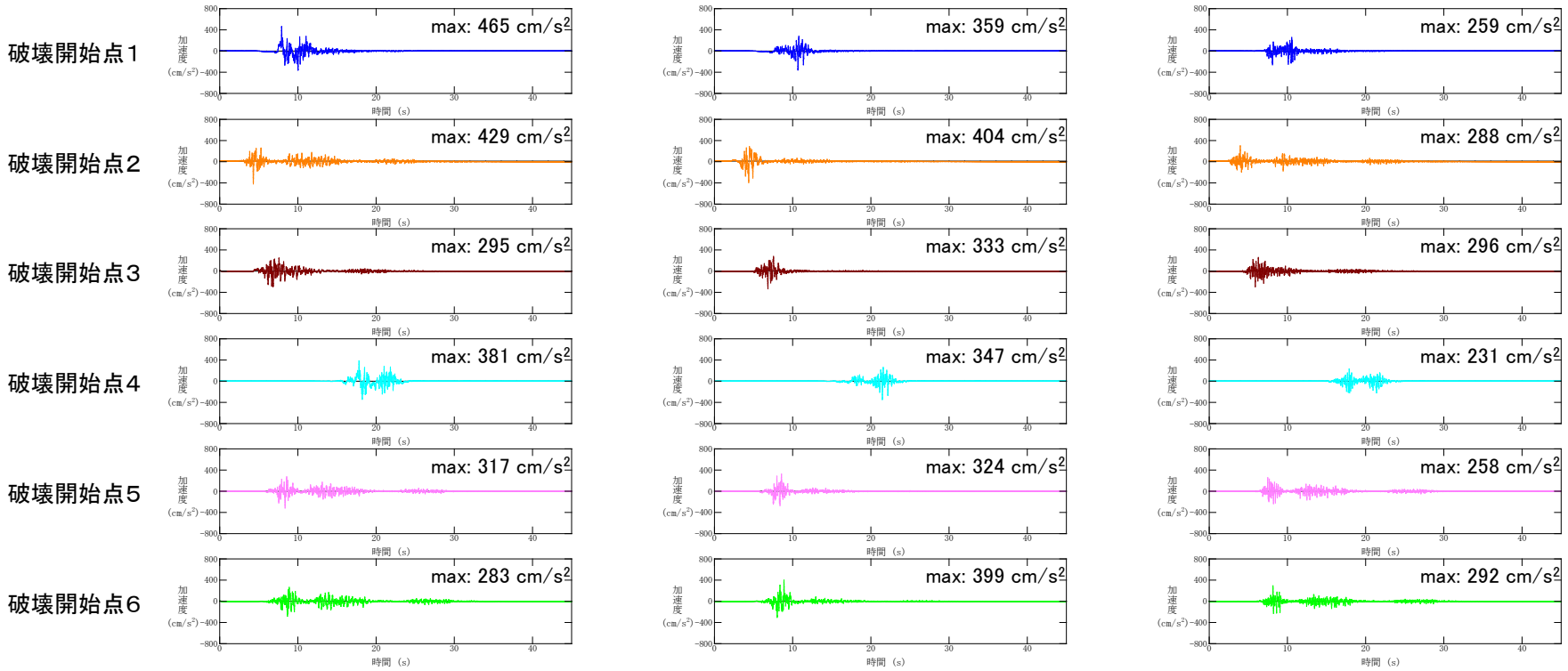


擬似速度応答スペクトル

断層モデルによる地震動評価結果 6/16

第530回審査会合資料1 P152 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（④破壊伝播速度の不確かさを考慮したケース）

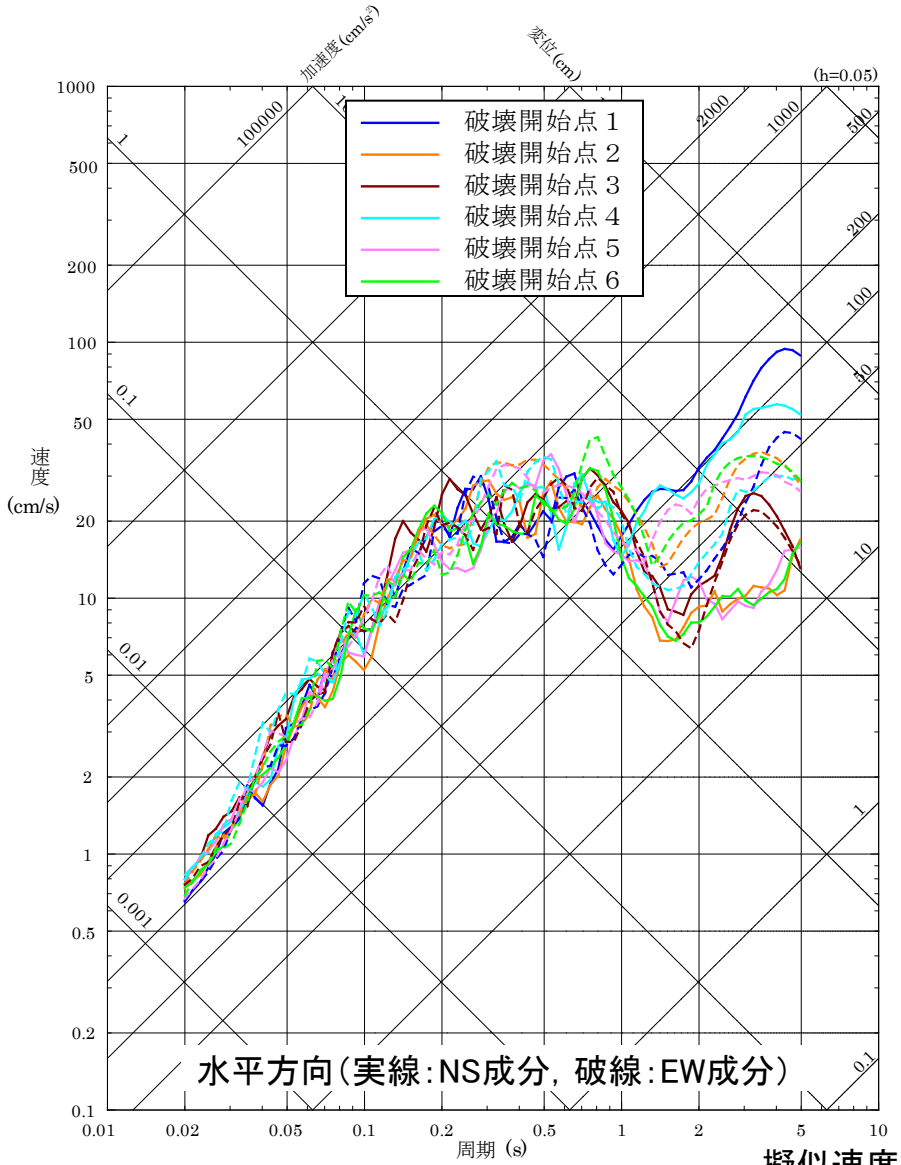


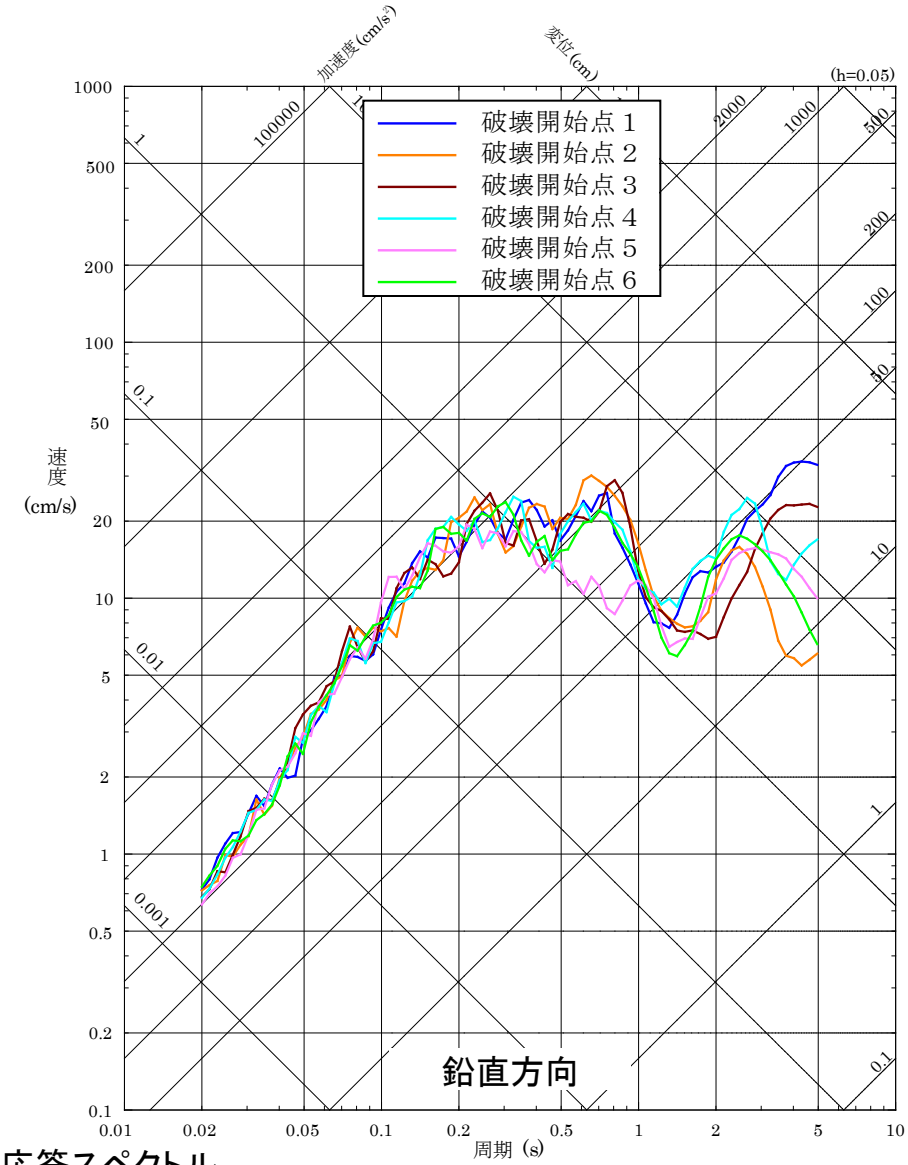
加速度時刻歴波形

断層モデルによる地震動評価結果 7/16

第530回審査会合資料1 P153 再掲

■ F－Ⅲ断層＋F－Ⅳ断層＋F－Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（⑤すべり角の不確かさを考慮したケース）



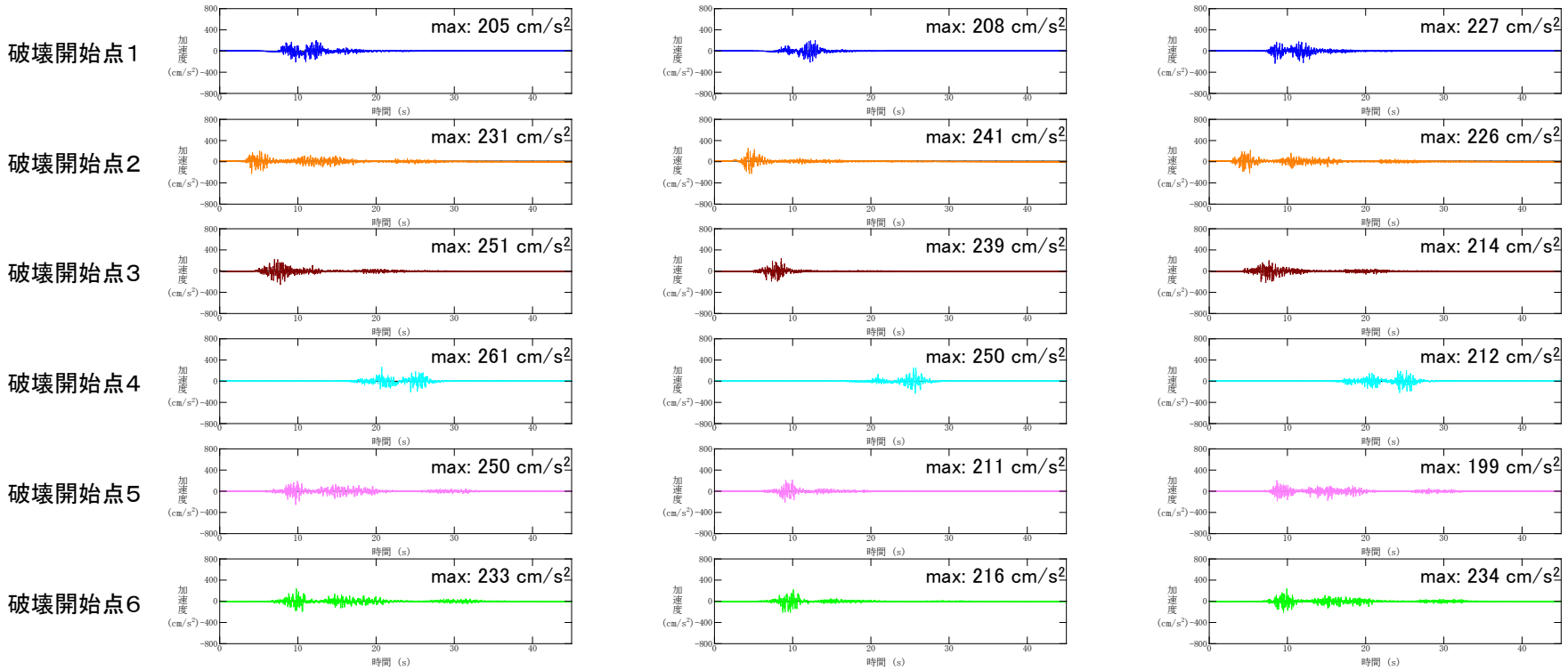


擬似速度応答スペクトル

断層モデルによる地震動評価結果 8/16

第530回審査会合資料1 P154 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（⑤すべり角の不確かさを考慮したケース）

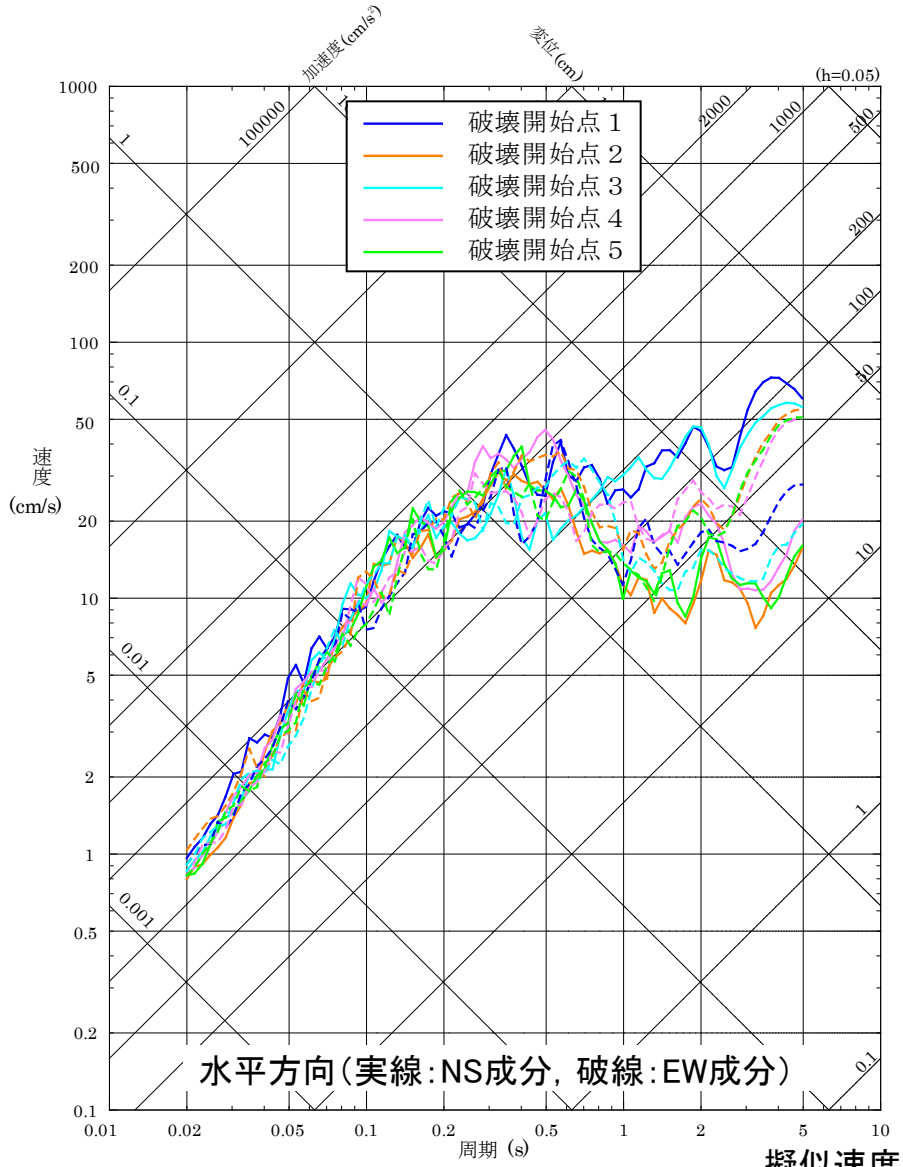


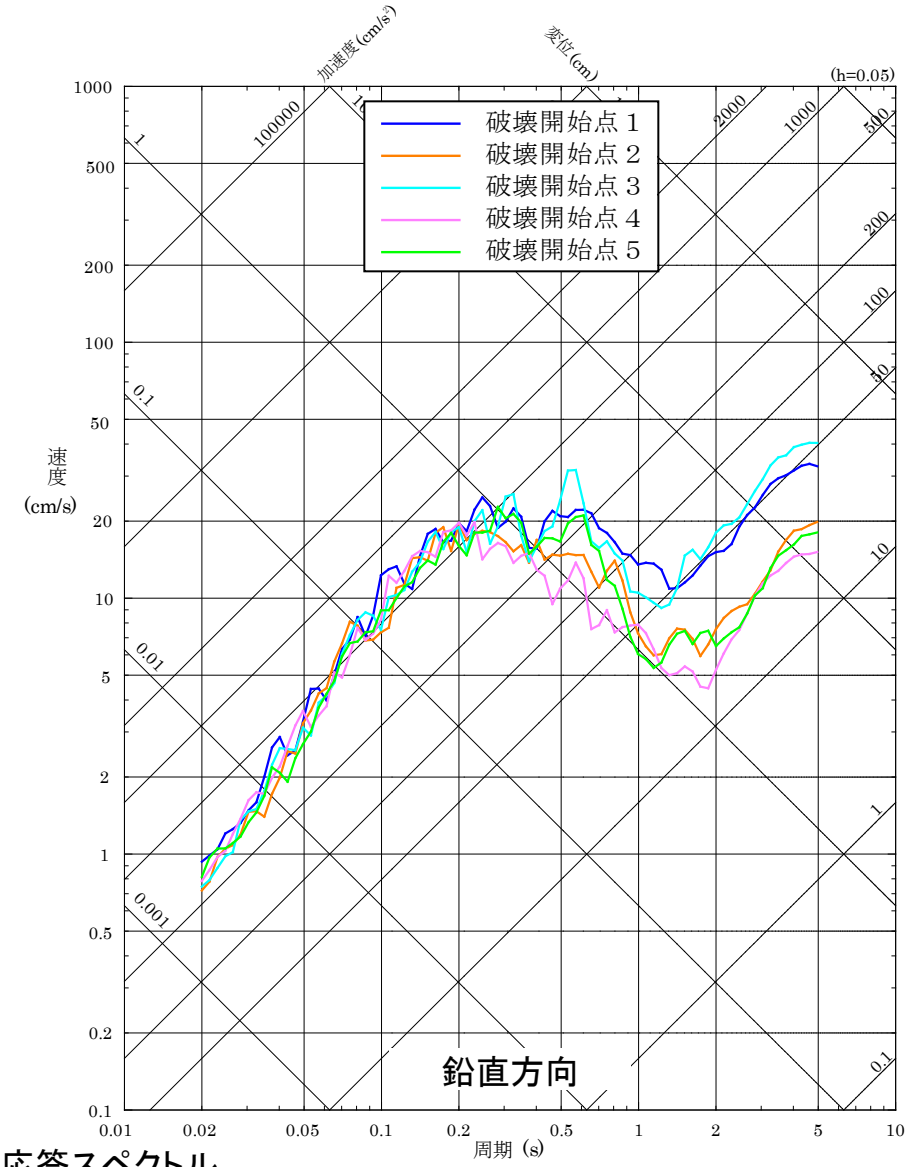
加速度時刻歴波形

断層モデルによる地震動評価結果 9/16

第530回審査会合資料1 P155 再掲

■ F－Ⅲ断層＋F－Ⅳ断層＋F－Ⅴ断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑥アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：横長））



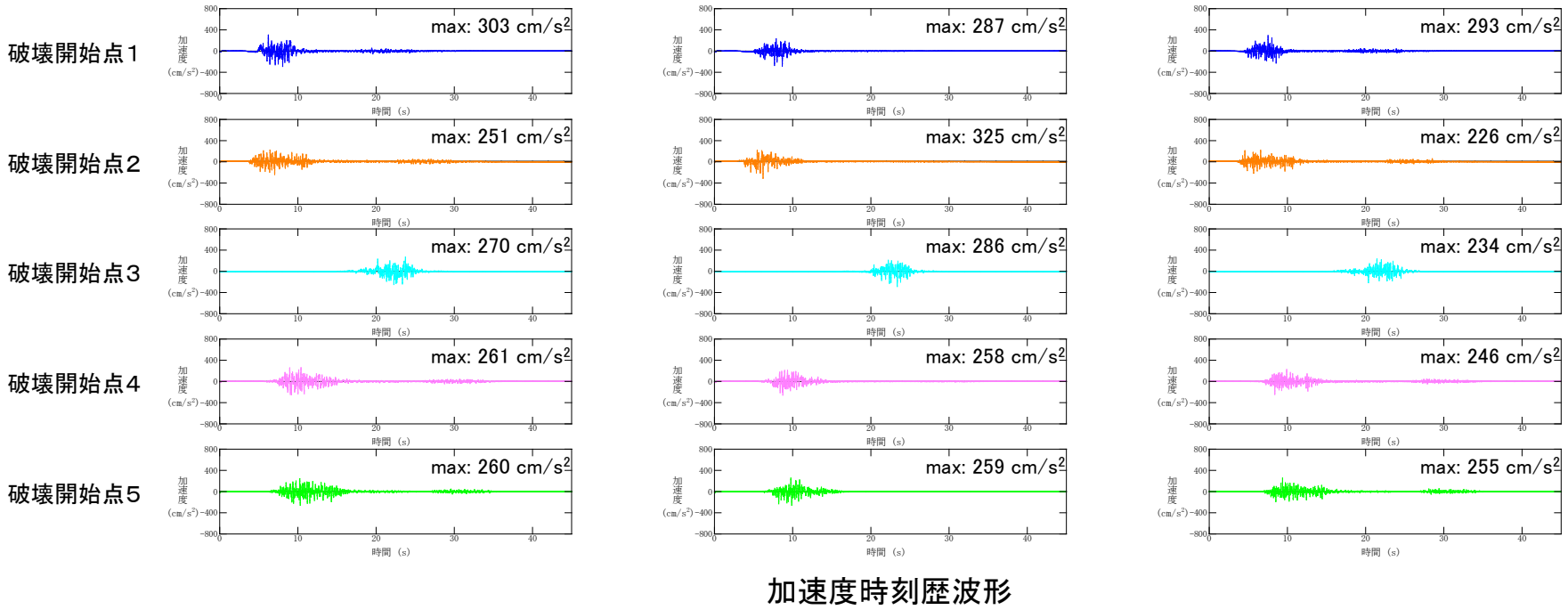


擬似速度応答スペクトル

断層モデルによる地震動評価結果 10/16

第530回審査会合資料1 P156 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑥アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：横長））

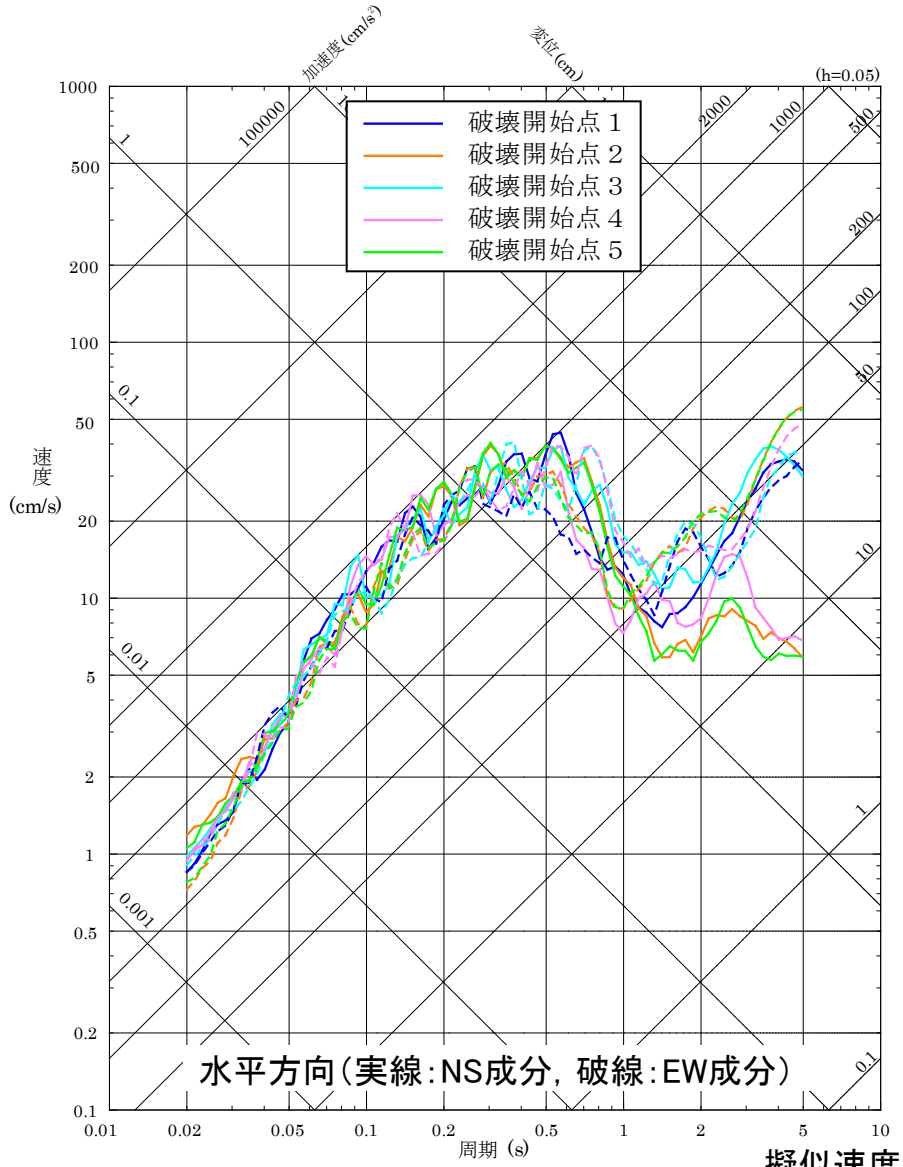


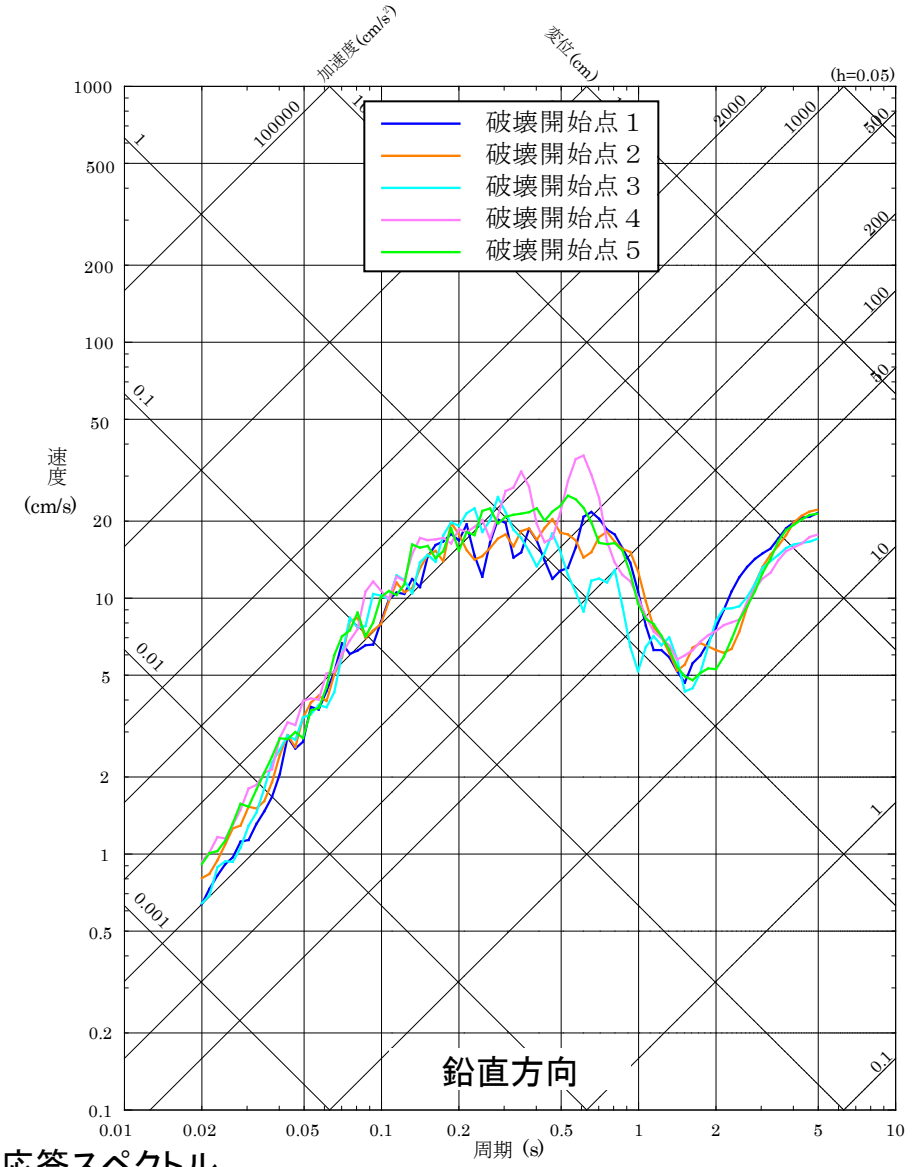
加速度時刻歴波形

断層モデルによる地震動評価結果 11/16

第530回審査会合資料1 P157 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑦アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：縦長））



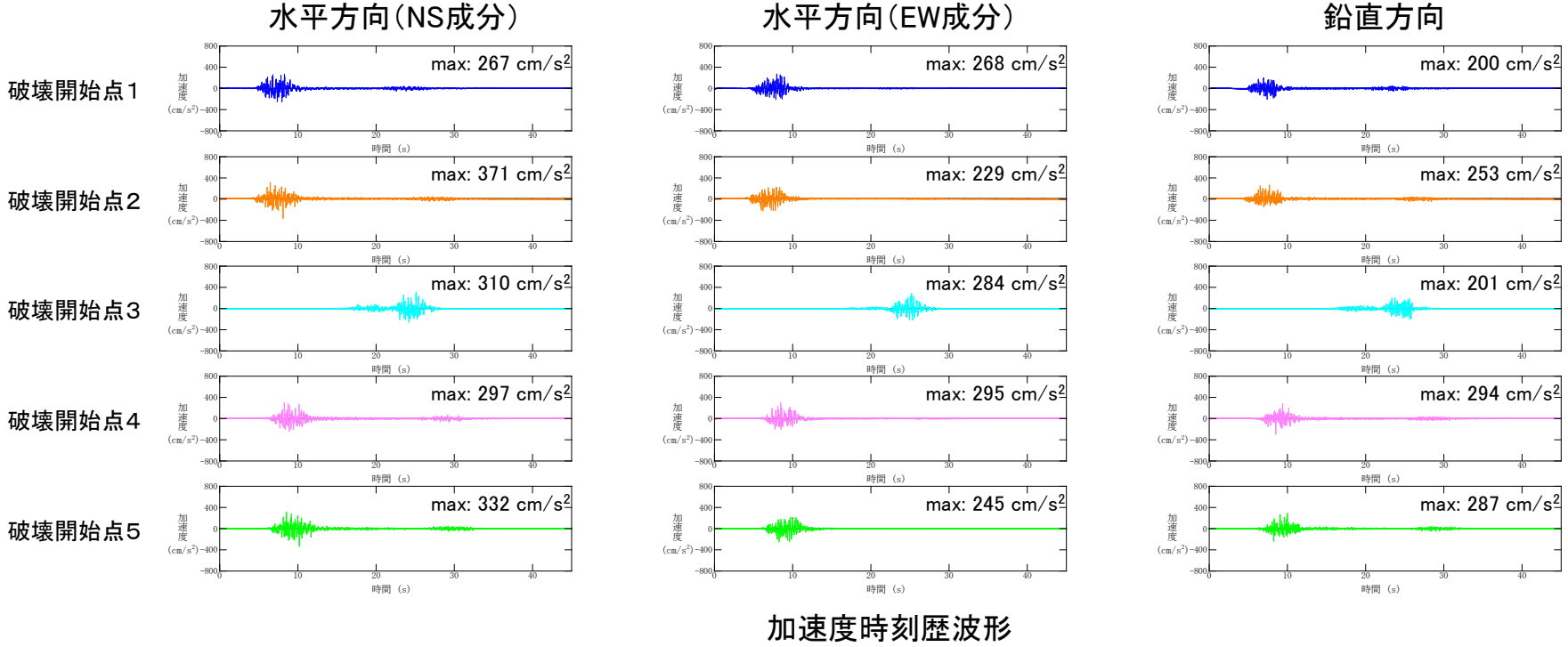


擬似速度応答スペクトル

断層モデルによる地震動評価結果 12/16

第530回審査会合資料1 P158 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果
（⑦アスペリティの不確かさを考慮したケース（一塊：縦長））

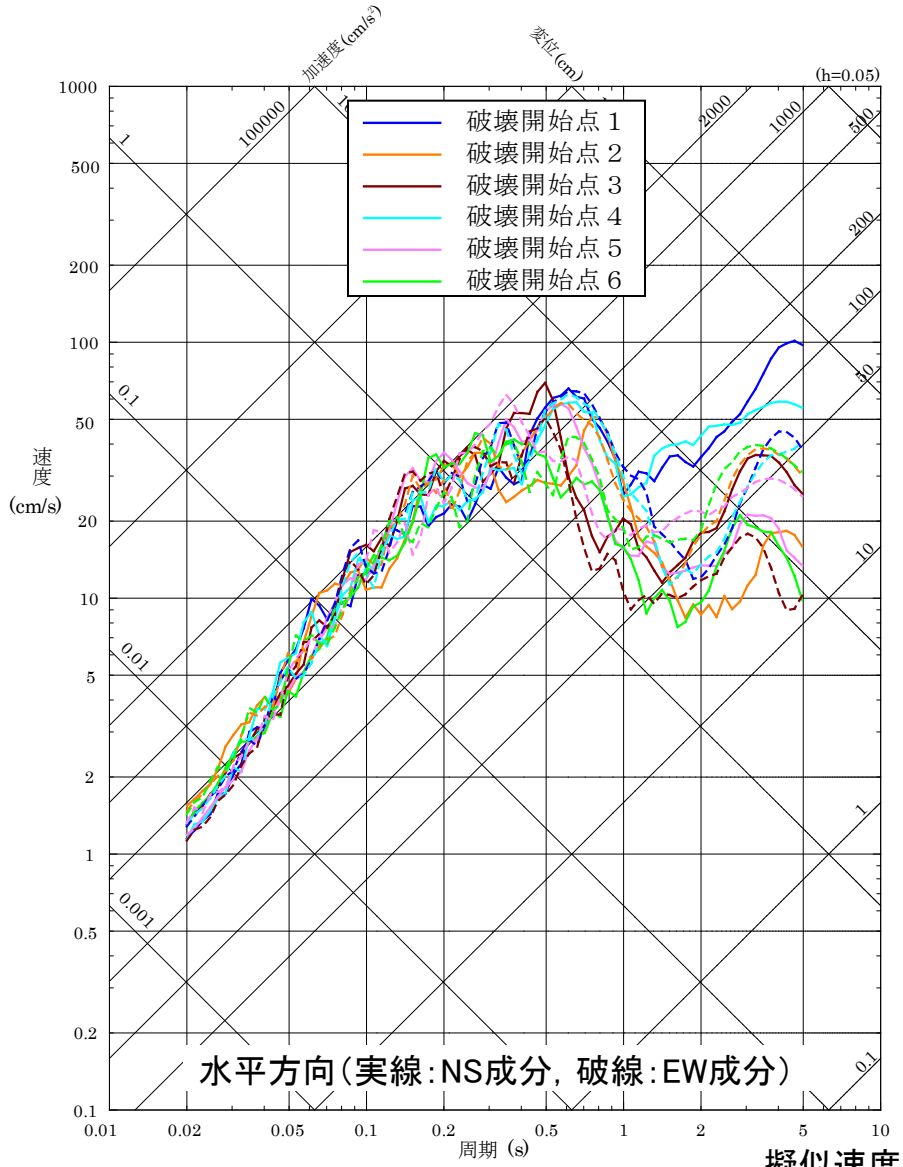


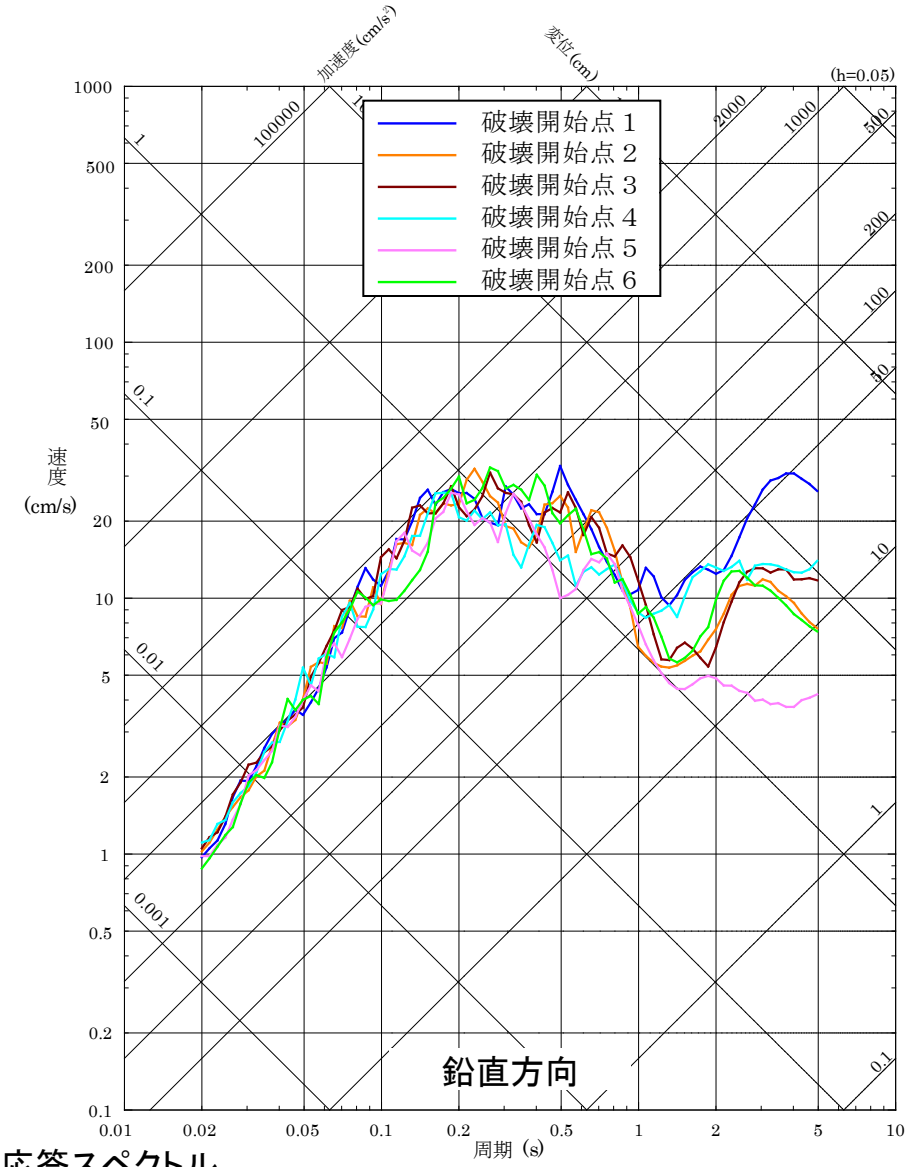
加速度時刻歴波形

断層モデルによる地震動評価結果 13/16

第530回審査会合資料1 P159 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（⑧中越沖地震の短周期レベルの不確かさを考慮したケース）



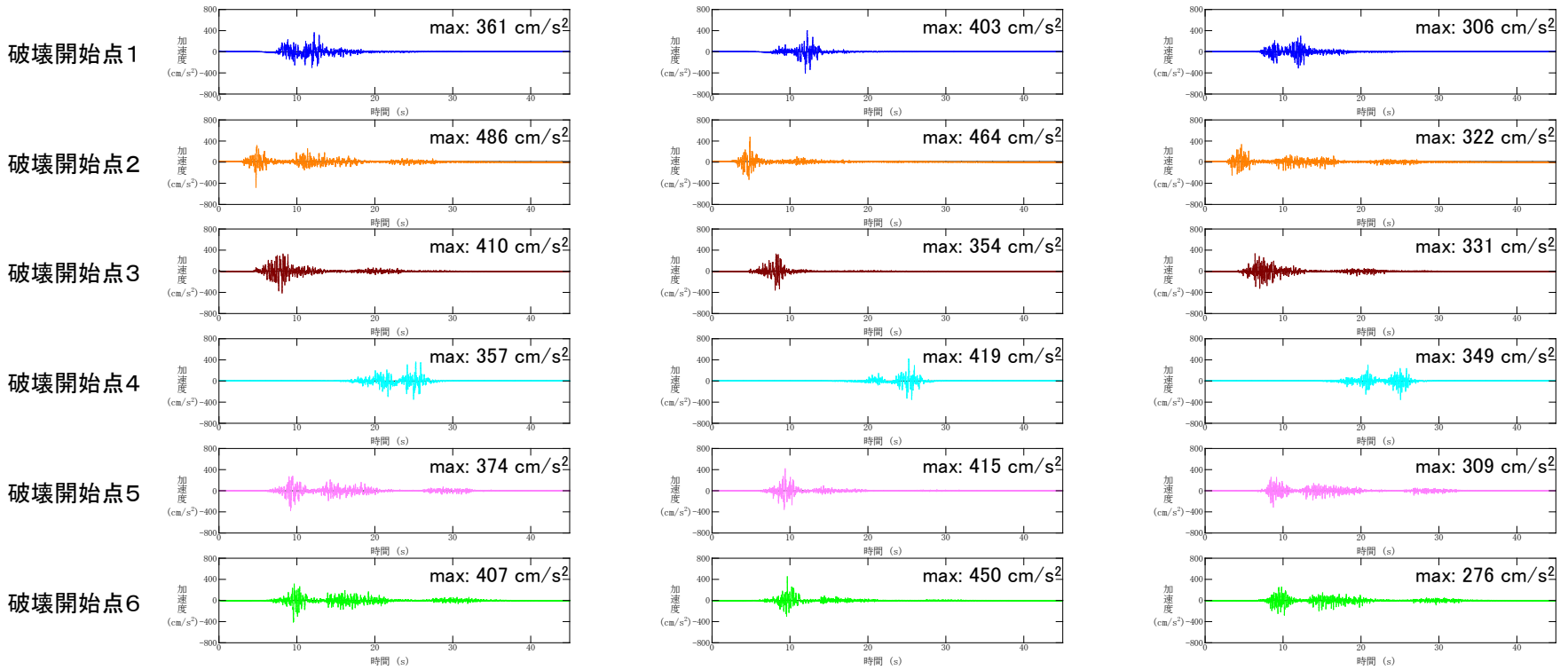


擬似速度応答スペクトル

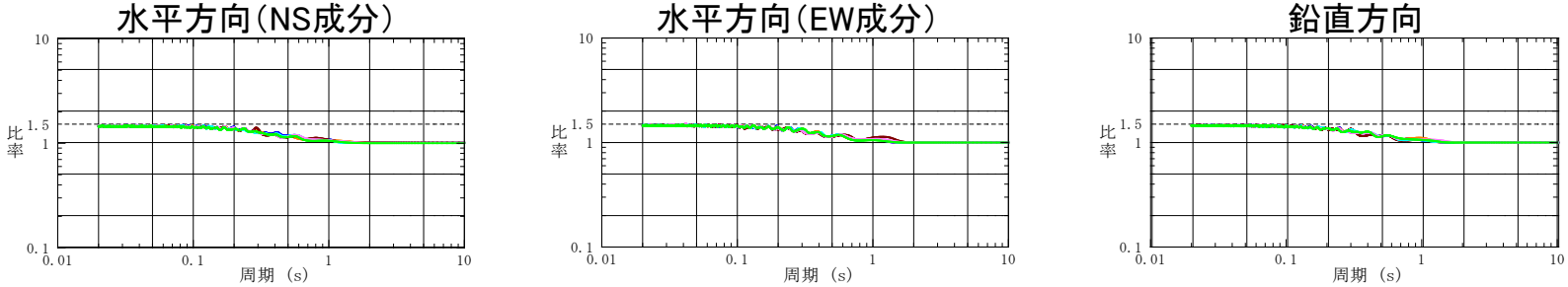
第530回審査会合資料1 P160 再掲

断層モデルによる地震動評価結果 14/16

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（⑧中越沖地震の短周期レベルの不確かさを考慮したケース）



加速度時刻歴波形

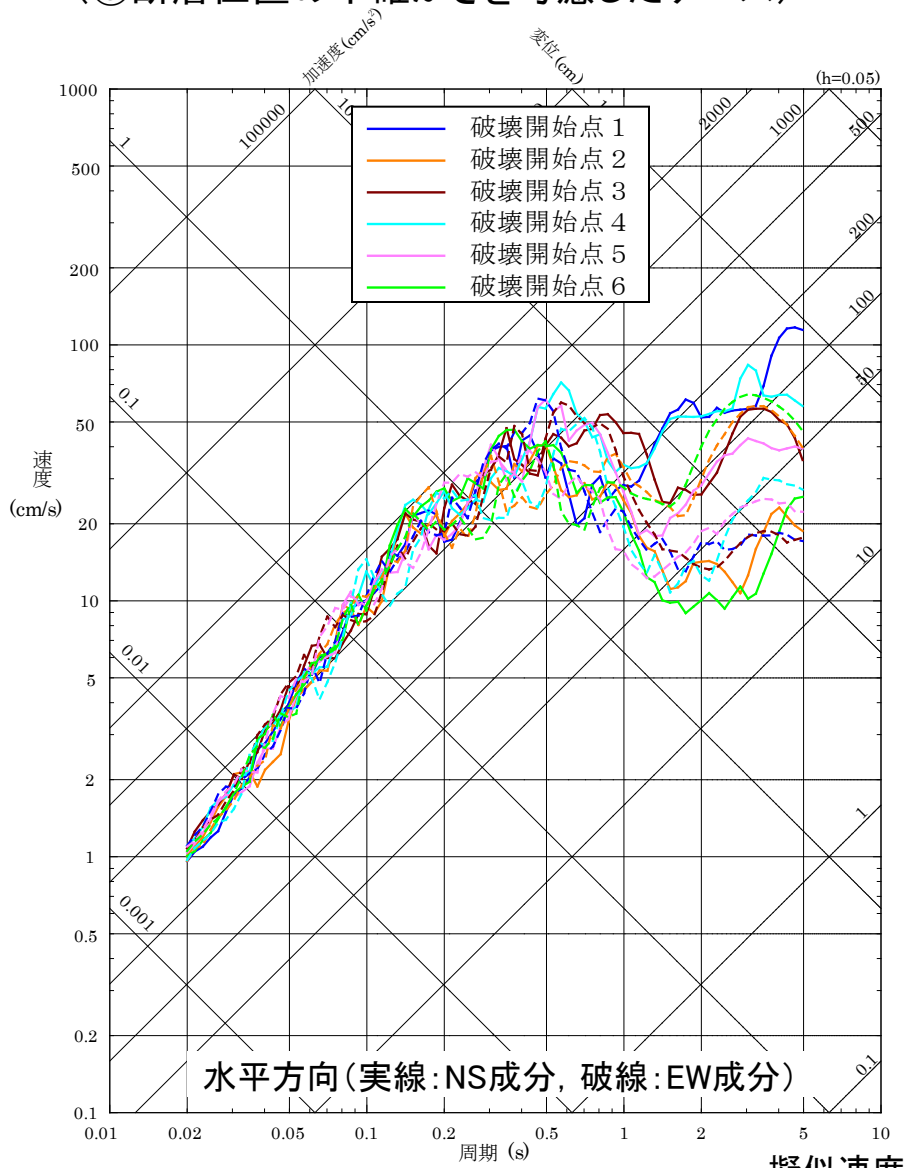


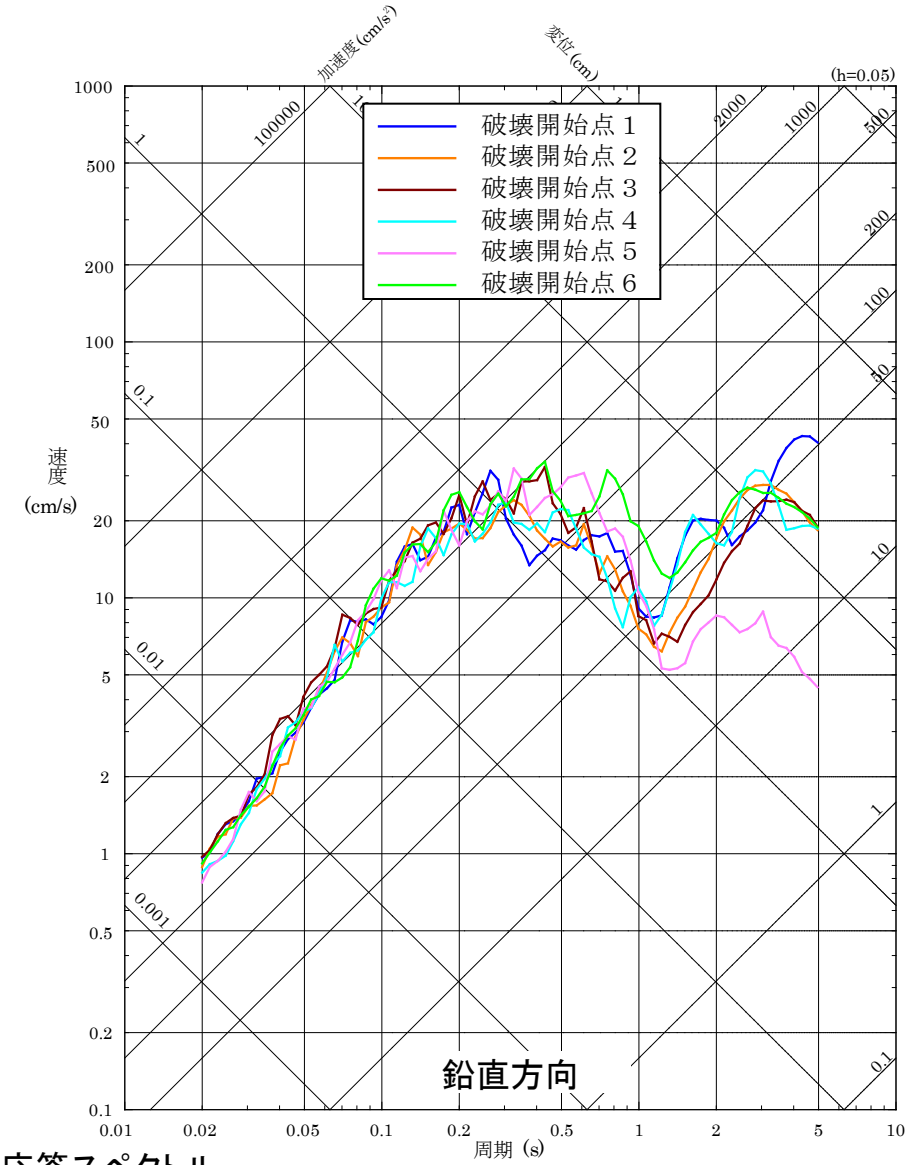
フーリエスペクトル比 （中越沖地震の短周期レベルの不確かさを考慮したケース／基本震源モデル）

断層モデルによる地震動評価結果 15/16

第530回審査会合資料1 P161 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（⑨断層位置の不確かさを考慮したケース）



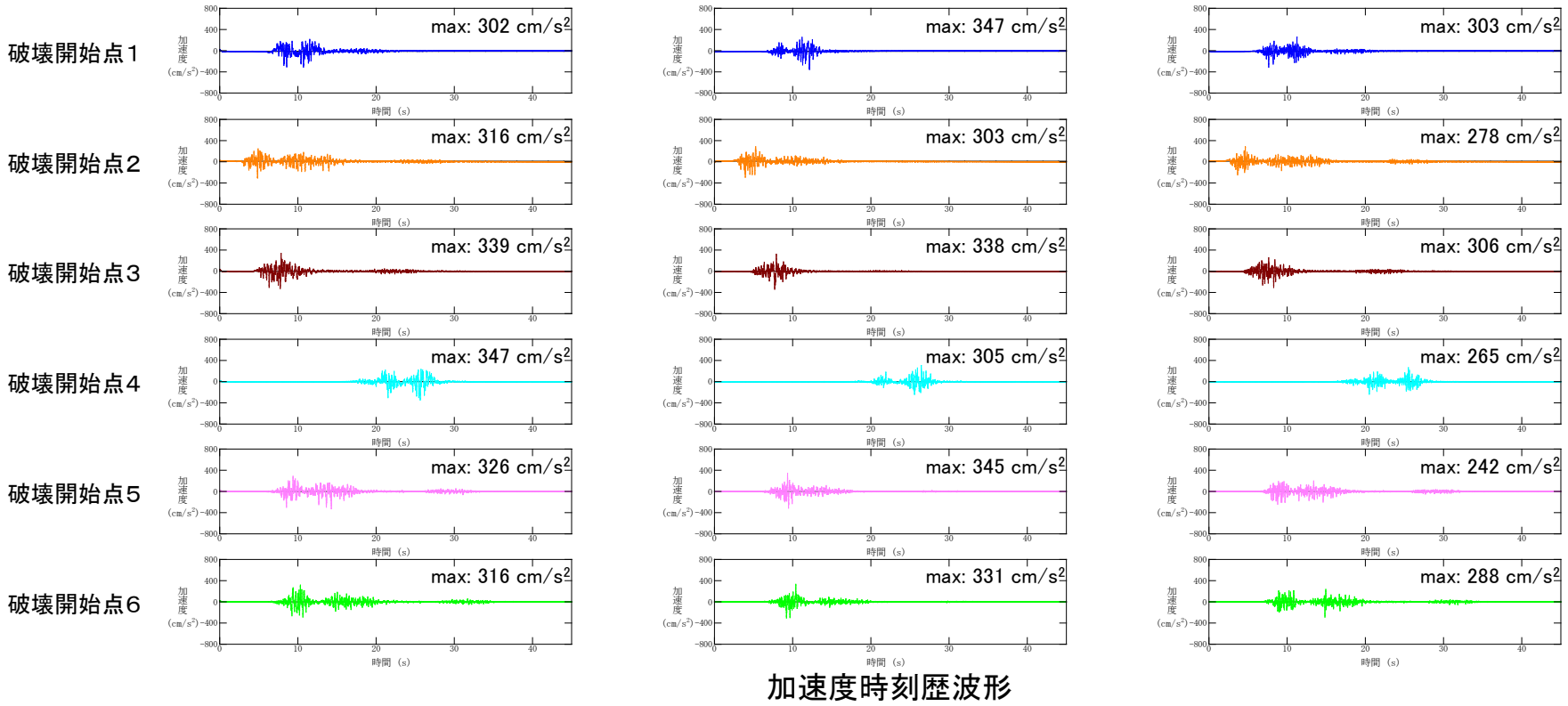


擬似速度応答スペクトル

断層モデルによる地震動評価結果 16/16

第530回審査会合資料1 P162 再掲

■ F-Ⅲ断層＋F-Ⅳ断層＋F-Ⅴ断層による地震の断層モデルによる地震動評価結果
（⑨断層位置の不確かさを考慮したケース）



加速度時刻歴波形